千萬圓も增加した。そこでこの關東州、滿洲及び英領印度、蘭領印度等日本の手近の所で增加した額を勘定して見ると、五億三千萬圓以上に上りますから、支那で三億五千萬圓失つても、まだ一億八千萬圓だけは日本の輸出貿易が增加してゐる。これが吾々日本人の歐羅巴人とは違ふところで、卽ち一つ壓迫を加へられると、直にその脇へ行つて膨脹する。此處で叩かれれば直に彼處へ行つて破裂すると云ふ譯であります。

今日英吉利が印度に於て悲鳴を揚げ、和蘭が蘭領印度に於て悲鳴を揚げて居るのは、自ら日本へのボイコットに贊成したり、支那の尻押しをした結果で、自分の顏に自分で唾したやうなものであるから、吾々日本人から言へば好い氣味であつて、彼等は自業自得と、かふ言はなければならぬ、これは一例であります。

(三) 原料國の歩調揃はず

——結局壓迫は不可能——

吾々日本人は、一方で壓迫を加へられゝば、それで閉口してしまふやうな人種ではない。昔から壓迫を加へられゝば加へられる程、熱度を增して努力して行く人種であります。今日印度、蘭領印度等の方面で段々壓迫を加へられるから、その結果日本は阿弗利加に行き、南亞米利加に行き、小亞細亞に行き、更に歐羅巴に行き、各方面に向つて非常に努力して居るのであります。その貿易の增加は實に驚くべきもので、昭和七年に日本から歐羅巴各國に出たものは一億二千七百萬圓であつたのが、昭和九年には二億二千七百萬圓と約一億圓殖えて居る。これなどは吾々夢想だもしないところ

で、全く歐羅巴に日本の品物がこんなに行かうとは思はなかつた、矢張り日本人の非常な努力の結果であります。また阿弗利加の如きは昭和七年には八千五百萬圓に過ぎなかつたものが、昭和九年には一億八千二百萬圓となつて、これも一億圓ほど殖えて居る。その他南米或は小亞細亞地方の、吾々の名も知らないやうな小國にずんずん日本品が賣れて行く、それらの地方へ日本の商人が行つて、非常な努力をして賣込みつゝあるのであります。故に印度や爪哇或は比律賓などで壓迫されても、その代りはどんどん歐羅巴に近い所へ進出して居るから、支那で日本を壓迫して英吉利が自ら咽喉を締めたやうに、日本を彼方でも此方でも壓迫すれば、今度は歐羅巴人の自ら勢力範圍として居る所へ向つて、一層の努力を以て復讐的に進出して行く。その結果は歐羅巴人は益々自分で自分の咽喉を締めるやうになるであらう、だから決して日本はこれが

爲めに閉口するやうなことにはならぬと思ひます。

この點に關し歐羅巴の學者中には、中々よく日本を理解して居る人もあつて、最近の倫敦クイムスに、倫敦大學經濟學教授グレゴリー博士の意見が掲載されて居りましたが、その中に

『日本品を防遏して其目的を達しやうとすることは不可能だ、日本を壓迫し日本品を賣らさないやうに努めれば、その結果は日本が原料を外國から買はなくなつて來る。元々日本は原料のない國であるから、日本の商品が賣れゝば、それだけ原料を外國から買ふのである。原料を外國から買つて、それに加工して日本の商品として外國に賣つて居るのであるから、日本品を賣らさぬやうにすれば、日本が原料を買はなくなるのは當然である。さうなれば原料を日本に供給してゐる國が非常に困つ

て不平を言ふやうになつて、世界各國の歩調が亂れてしまふ。だから各國皆歩調を一にして日本を壓迫することは不可能である。』

と言つて居りますが、これはグレゴリー博士の言ふ通りであつて、日本の輸出入貿易を比較すると、何時でも輸出より輸入の方が一億か二億多い。今までの所、大抵日本は一億か二億は外國から多く物を買つて居る、多く買つて居るから、日本の品物を買はない國、日本品に對し非常な重税を課する國の品物は買はぬと言ふことが出來る、卽ち今度の加奈陀に對する報復關税の如き、その一例であります。また濠洲は日本に小麥なり羊毛なりを賣つて居る國であるから、若し日本が濠洲の物を買はぬと困る、故に濠洲も努めて日本品を買ふやうにしなければならぬ。かう云ふことに濠洲の輿論がなつて、その通商大臣が經濟使節として日本へ來て、濠洲としては如何なることがあ

つても日本品を排斥しない、努めて買ふ方針を取るから、日本もどうぞ濠洲の品物を買はぬなどゝ言つて呉れるなと言ふことで、此方からも出淵大使が、その答禮として濠洲へ行かれて、濠洲と日本との間に通商條約を締結すると云ふことになつて居る。のみならず濠洲は如何なる事があつても日本に反對しない、卽ち敵對しない、何故ならば通商貿易上の點に於て日本と喧嘩することが濠洲の不利益ばかりでなく、濠洲の如き軍備の薄弱の國が、日本のやうな强力な海軍を持つ國と喧嘩すれば、濠洲の存立を危ふくするものである、どうしても日本とは仲よくして行かなければならぬ。若しも英國が日本と衝突するやうな場合には、濠洲は獨立しても日本と友好關係を維持して行かねばならぬと云ふことを、濠洲人は熱心に說いて居る。或はさう云ふやうなことにもならうと思ひます。濠洲は英吉利の植民地なりと今まで私共は考へて居つたけ

れども、今日は實質に於ては殆ど純粋の獨立國である。さう云ふこともあるし、日本が原料を買つて居る國は、濠洲ばかりでなく、南洋でも南米でも到る所にあり、貿易上の數字から言つても、日本品を買はなければならぬ關係にあるから、グレゴリー博士の言ふ如く、歐羅巴人が日本を壓迫しやうと言つても、それは中々出來ることではないのであります。

（四）植民地の革命的不安

――犧牲を強ゆれば爆發――

印度方面を始め南洋方面、その他中央亞細亞、阿弗利加等にある歐羅巴各國植民地の住民は、殆ど例外なしに日本の安い商品を買ひたい、英吉利や亞米利加の高い商品

は、生活程度の低いこれら植民地の住民には適しないから、何でも安い物を買ひたいのであります。ところで其安い物は皆日本から行く、この安い日本の品物を植民地の住民が買ふならば、歐羅巴の本國の産業を危ふくすると云ふことの爲めに、日本の品物を排斥すると云ふのである。言ひ換へれば、印度人は安い日本の綿布を買ひたいけれども、英本國はマンチェスターが非常に打擊を蒙るから、マンチェスターを保護する爲めに、印度の國民はその犧牲にされて、非常な不利益を忍ばなければならぬ。蘭領印度の住民も亦和蘭から着物を五圓で買ふよりは、日本の着物を二圓か三圓で買ひたいのである、然るに和蘭が本國を保護する爲めに、二圓も三圓も高い和蘭の着物を買はせるやうな無理押しをすることになれば、英領印度の土人達は、勢ひその本國を恨むに至るは當然であります。

そこで、この植民地と本國との關係はどうかと云ふと、歐羅巴大戰までは、植民地と云ふものは到底歐羅巴本國に對抗することは出來ないで、本國の力に抑へ付けられてグウの音も出なかつた。ところが歐洲大戰後今日に至つては、植民地の情勢が殆ど一變して來て居ります。矢張りこのロスロップ・ストッダード氏の說中にも

『歐洲大戰後、歐洲諸國の亞細亞、阿弗利加諸屬領に對する統御は極めて困難となり、英領印度、佛領印度支那、蘭領印度、比律賓諸島等何れも多少の騷擾を見ざるはなく、一佛國記者は之について記述するやう「組織的な植民地反逆運動は最近の現象で、大戰前には決して見られなかつたものである。然るに大戰後には地球の何れの部分も斯樣な叛亂なしに、一箇月と續いたことはない、卽ち職業的な革命家が所在に入込み、絕えず種々な運動を畫策してゐる」と』

とある、全くこの通りであらうと思ひます。次にまた斯う云ふことも書いて居る。

『未來に於ける東洋の政治問題は、西洋の屬國となれる廣大な地方に關して起るであらう。是等の地方は現に自治を要求し、或は獨立を翹望してゐる。されど心ある觀察者は、獨立を許すことが多くの場合に於て却つて失政を生じ、爭端を滋くし、混亂狀態を惹起することなきやを憂ひてゐる。それにも拘はらず、西洋の覇權は一樣に動搖を生じて、亞細亞の諸屬領が西洋の支配を脫することは、早晩必要の運命と見られるに至つた。輿論を喚起し大衆を指導しつゝある先覺者達は、假令如何なる結果が生じやうとも、白人の支配を脫却することを希望しつゝある。比律賓の一志士の言は之を裏書するものである、曰く「吾人は亞米利加人によつて天國の如く支配せられんよりも、寧ろ吾々自身によつて地獄の如く支配せらるゝことを希望す

る」と。』

この論に依ると、植民地を獨立させることは、必ずしも植民地の爲めに幸福かどうか分らぬが、兎も角亞細亞の植民地が動搖して、西洋の羈絆を脱して獨立しやうとして居る、必ずや早晩獨立するであらうと言ふのであります。

また日本の今村忠助と云ふ人が、最近これら各植民地を視察して歸つての話の中にも、

『今度米國が比律賓獨立を許すに當つて、慾來年々二三千名づゝ米本土に入國して居た比島人を五十名に引下げ、砂糖の輸入量は三分の二に減じ、椰子油には一封度三仙のものに五仙の禁止的高率消費税を課し、而も一米弗は二比の貨幣制度を維持せしめ、安い日本品には重税を課せしめると云ふ有様である。詰り一方に獨立の美

名を與へて一方經濟的に永久搾取せんとする魂膽と見られる。この辛辣極まる米國の經濟的搾取に憤慨して立つたのが、ルソン島に勢力を張るサクダル黨で、黨主は目下東京に亡命して居るラモス氏である、今後獨立比律賓の政權を廻つて、親米派と親日派の黨爭は刮目に値する。

蘭領印度では、日蘭會商の前後を通じ約四千名近くの民族運動者を檢擧した。日本に視察に來たハッターと云ふ青年が、大阪の新聞に蘭印の志士來ると書き立てられただけで、歸國後直に投獄されニューギニアへ流刑となつた程である。何れにしても和蘭は本國の五十六倍の蘭印を領有し、七百萬人の和蘭人が六千萬人の蘭印人を搾取してゐる。今少し大衆が自覺したら、蘭印インドネシヤ國家の建設も遠くはあるまい。

馬來半島のケダ王國の皇太子が、今春日本へ憧がれて渡日の準備中、英國官憲は種々干渉して、渡日を妨げたのみならず、僅かに患ふて入院中急死された。當時一般はこの皇太子の死を怪死として種々取沙汰した位である。兎に角馬來土民も一般に覺醒して、殊に日本を信頼し近づかうとしてゐる。』

と、各植民地何處も平穏無事でないことが報告されてあります。

何れにしても、民族自決などゝ云ふことが國際聯盟で唱へられ、さうして日本が今日の如く隆々として大國に列し、英米をも向ふに廻はして、對等の相撲を取らうと云ふ例を示して居るのでありますから、これら植民地の人民が、さう昔通りに歐米人に盲從する筈はない。かやうなときに安い日本品を求めんとする植民地の希望を壓迫して、本國の產業を援ける爲めに、無理に高いものを買はせるやうな政策を取り得るか

どうか。若しもさう云ふ政策を取り得るならば、日本には閑人が非常に多過ぎて困る、內務省が今日暴力團の征伐を始めて、既に一萬人以上も檢擧したと聞く位です、日本に澤山居る是等の人達が、さう云ふ所へ行けば、所謂革命の志士となり非常な忠良の人となる。だから斯う云ふ人々が行つて、そんな騷動に油を注がないと云ふことを何人が保證いたしますか、また重大な問題になれば日本には有力な陸海軍が控へて居る。歐羅巴各國も今までのやうに、何でもかでも力を以て日本を壓迫すると云ふ如き政策は長くは續かない、卽ちストッダード氏もさう云ふ義論をして居るが、私も亦さう思ふのであります。

（五）支那を繁榮に導けば

――支那貿易は獨占出來る――

先に申した通り、あの狹い關東州だけでも、昭和七年の輸出一億二千六百萬圓であつたものが、昭和九年には二億九千五百萬圓と、僅か三年間に一億七千萬圓も增加した。滿洲も一億圓以上に達し今年は二億にも上るであらう、それだけ日本の品物を多く買つて居るのであります。さう云ふ譯であるから、文那と云ふ國が、若し今日の如き無政府狀態に放拋して置かれゝば仕方がないけれども、これを日本人の手か、或は支那人と協力してか、兎も角適當な政府を立てゝ、さうして日本がこれを指導して行くやうなことになつて來れば、元來支那は國民も多く、また天然資源も豐富の國であ

る、日本が今日の狀態であると、支那一國の貿易を殆ど獨占出來ると思ひます。

支那人も矢張り高い歐羅巴の品物よりは、安い日本のものを歡迎してゐるのであるから、立派な政府を造つてこれを指導し、國民を繁榮に導くやうな政策を取ることが出來たならば、日本の貿易は非常に增加すると思ふ。大正八年四億五千萬圓の輸出が、今日は一億一千萬圓に減つて居ると申したが、さうなれば四億五千萬圓どころではない、滿洲の今日の例を推して見ても、支那全體の貿易は、五億や十億には直ぐならうと思ひますから、假に日本が印度や南洋方面で壓迫されて伸力を失つても、退いて支那に立籠つて、支那を繁榮ならしむる工夫をいたしたならば、それだけでも日本の產業は立派に發達し、隆昌に赴くだけの下地は十分あると考へます。たゞ問題は支那は日本の自由にすることが出來ないと云ふことになつて居るのであるが、併しなが

ら今日の狀勢から申せば、滿洲はあの通りになつて居るし、北支も亦あゝ云ふ狀勢にある。歐羅巴が餘り不法なる壓迫を吾々日本人に加へるやうなことになれば、日本人は何處かに破裂する。この點に關しストッダード氏も亦言つて居ります。

『日本はたゞ工業化だけに依賴する外なく、益々外國貿易がその死活問題となつた。この時に際し世界大戰は全く天與の好機會で日本の世界的進出は一時目覺ましかつたが、平和克復後は主として支那に主力を注いだので、一九三一年に一時日支關係の斷絶を見た際の如きは、日本にとつて非常な苦痛であつた。間もなく日本は金本位を離脱し、その激落せる圓を武器として、再び世界市場の獲得に乘出した。その結果は辛うじて現在六千六百萬の人口を養ひつゝあるが、年々百萬の割合を以て增加しつゝある過剩人口を今後如何に處置すべきか、若し世界の市場が日本品を排斥

するならば、彼等は文字通り餓死する外は無い。これは實に日本にとつて切迫した猶豫のならぬ大問題だ。

現在の日本は止み難き生活本能、卽ち自己保存の爲めに起つたのである。之に加ふるに大日本の白熱的な信仰と、大和民族の誇りとを以てして、犧牲と死を物ともせぬ勇敢な武士道的敎訓を併せ考ふれば、日本が決然として前途の盤根錯節を斷ち、劍を執つてその未來を切り拓かんとする現狀に對しては、吾人にも十分にその氣分を理解し得られるのである。』

日本は何處かに自分の生命を繫ぐ所の場所を發見しなければならぬ。餘り歐米人支那人に壓迫されたから滿洲に破裂した。今度は印度とか蘭領印度とか、南阿弗利加と云ふ方面を壓迫されると日本人は出ることが出來ない、出ることが出來なければ年々

增加する人口を養ふことが出來ないから、日本の生存を危ふくする。日本の生存を危ふくされても日本人は默つて居つて、その儘餓死して自滅すると云ふ譯には行かない。何處かに進出して自分の生命を維持するだけの事はしなければならぬ。生命だけは繋がなければならぬ。

私共の工場でも澤山の人を使つて居るが、その人達が假令如何なる理由にしても、明日から食へない、路頭に迷つて餓死しなければならぬ、かう云ふ者があれば理由なしにそれを助け、生活の出來るやうにしてやらねばならぬ、それが吾々の義務である。それと同じく國家は生存して行かねばならぬ、一つの國家が諸方から壓迫されて餓死しなければならぬと云ふ時に、默つて餓死は出來ない筈であるから何處かに破裂する、その破裂する所が何處であるか知らないが、さう云ふことにならうと思ふのであります。

(六) 海賊的投資會社の成功

——西人の植民地占領來歴——

歐羅巴各國は亞細亞に大きな植民地を持ち、それに依つて本國の富を造り、その富に依つて武力を整備し、所謂富國强兵の實を擧げて今日に至つたのであるが、各國がこの植民地を手に入れた當時の歴史を顧みると、餘程面白い所があつて、今後吾々日本人の非常に參考になることが多いと思ひます。

これを簡單に申しますと、十六世紀に於て東洋と西洋との貿易上の利益を占める者は、殆ど西班牙人と葡萄牙人に限られ、和蘭人でさへまだ東洋方面卽ち印度などの物産は、葡萄牙商人と取引するより外に途はなかつたのであります。然るに和蘭が西班

牙に叛して獨立すると、一五八〇年葡萄牙を征服併合した例の西班牙のフイリッポ二世は、葡萄牙人が叛民和蘭人と貿易することは相成らぬと嚴禁して壓迫しました。窮境に陷つた和蘭商人は、直接に印度に渡つて印度土人と貿易する外ないのであるが、それをするには當時の印度航路は全く葡國人の權力下にあつて、印度洋通航の外船は一切海賊船と見做され拿捕されてしまふから、個人では到底印度貿易は出來ない、どうしても葡國人の妨害を除き得るだけの海軍力と、土人の酋長を威壓して交易を實行し得べき力が備はつて居なければならぬと云ふことで、一策を案出したのは、互に資金を醵出して船舶を造り、合同の力で大なる和蘭東印度會社を組織し、自ら軍隊と軍艦とを備へて印度貿易をやらうと云ふことであつて、これが一五九四年で我が慶長十四年であります。かくして和蘭東印度會社は首尾好く土人の酋長と條約を結び、政府

から印度貿易の專權を特許されたのが一六〇二年でありますが、創立から一六一一年迄は固より利益なく、その後も二十數年間は半ば以上無配當の年であつたと云ふことである。しかし和蘭人は不撓の努力を續けて漸次植民地を擴張し、商敵葡萄牙人の手からモルッカ群島、マラッカ、セレベス其他東印度マラバル海岸の諸要地を奪ひ、更に日本との貿易を獨占した。その勢力の絶頂は十七世紀末で、十八世紀から漸次英吉利人に壓倒されて衰弱し、一七九五年遂に東印度會社は解散して、當時會社所有の植民地は和蘭政府が引取つて領有した、これが現在の蘭領印度であります。佛蘭西も亦一六〇四年東印度會社を設けて印度貿易に力を注ぎましたが、會社は爾來起倒常なく、事業上一定した方針もなくて、英吉利人との競爭に打ち負け、既に獲得した植民地も漸次英人の手に奪はれてしまつたのであります。

西班牙から壓迫されて直接印度貿易に乗り出した和蘭人は、一五九八年には東洋貿易に或る程度の地歩を占むるに至つたので、同年英吉利人に賣渡す胡椒の値段を三志より六志に引上げ、更に八志まで暴騰せしめた爲め、英國商人は大恐慌を來し、倫敦市長を座長として善後策を協議した結果、これ亦直接印度と貿易をやる團體を設立するに決して、一六〇〇年愈々英吉利東印度會社が設けられた、これが英人の印度に手を染めるに至つた抑もの始まりであります。爾來英國人はスラートを根據として、モガール皇帝を始め土着の王達を巧みに其勢力下に屈服せしめつゝ、英國人一流の根强い努力を以て一方では葡萄牙、和蘭、佛蘭西の勢力を驅逐して一八五九年、遂に全印度は完全に英政府の直領に歸したのであつて、それに至る迄の歴史は興味あるものであるけれども、玆では略します。

要するに、和蘭東印度會社の頽廢は、例へば香料などで馬鹿に澤山の儲けを取らうとするなど、たゞ目前の貿易上の利益のみに蹟躇して、帝國主義的の雄大な考がなかつた爲めであり、これに反して英吉利人が印度貿易では他國に先鞭をつけられながらも、尙且つ最後の勝利を博したのは、一には和蘭人や佛蘭西人の勢力を追ひ出すこと、二には印度土着の君主を自己の勢力下に壓服せしめることに、專念努力した結果だと云ふことである。これで見ても、和蘭と云ひ英吉利と云ひ、印度に進出した動機は、貿易上他國の無法な壓迫に奮起した所にある、卽ち商賣上の戰ひが元の起りで、後から奮起した英吉利が、遂に諸國の勢力を印度から追ひ出してしまつたと云ふ譯であります。

比律賓諸島は周知の如く葡萄牙の航海者マガリヤエンスが一五二一年に發見し、同

人は土人に虐殺されて、その部下が歸國してこれを報告したので、一五六九年に及んで西班牙人が赴いて占領したのであるが、一八九八年米西戰爭の際米國艦隊に占領され、同年和議成立と共に二千萬弗の賠償金を以て、同群島を米國に讓渡したのであります。

かう云ふやうに、歐羅巴諸國が植民地を占領した來歴を繹ねて見ると、總て貿易が本である。面もその貿易と云ふものも今日の貿易とは違ふのであつて、貿易と云ふ言葉は好いが、その實は力の弱い土人の所へ、力の強い歐羅巴人が來て、掠奪占領と云ふ意味を多分に含んだ貿易をやつて、遂に今日の素地を造つたので、考へて見れば東印度會社などゝ云ふものは、海賊的投資會社とでも云ふべきものであつたらうと思はれるのであります。

（七）西人の東洋侵襲と倭寇

——倭寇の失敗した理由——

丁度、今申したと同じやうなことが、日本の昔のことを調べて見るとある、それは例の倭寇であります。日本の歴史には餘り精しく載つて居らぬけれども、支那朝鮮若くは歐羅巴各國の方面から來た倭寇の來歴と云ふやうなものを見ると、歐羅巴人が東洋に進出して來た徑路と、甚だよく似た面白いところがありますから、その概略を一寸話して見やうと思ひます。

室町時代から德川時代の始めにかけて、凡そ百有餘年の長きに亘り、我西日本の士民が船を操り、群をなして近くは朝鮮支那の沿岸より、遠くは安南、交趾、暹羅、呂宋、

ボルネオ邊までも押渡つて、日本人特有の敢爲な氣象と優れた武力とで頻りにそれらの民族を脅かした。これを海賊と云つて居りますが、その祖先は古く王朝時代、造船を民間に許された頃から起つたのであるけれども、彼等の最も跋扈猛威を振つたのが、足利幕府時代であつた爲め、當時の明人等は倭寇々々と口癖のやうに言つて恐れ慄いたと云ふ所から、遂にさうした日本人を倭寇と呼ばるゝに至つたのであります。しかし倭寇は海賊なりと言つても、決して狐鼠々々泥棒ではない、その船や人の數を見ても、一隊少くとも三、四十艘、多きは百五十艘から三百五十艘、人間も一艘に百人以上も乘組んでゐたと云ひますから、少なく見積つても大きな隊になると三萬人位の總勢であつたと想像される、それが八幡大菩薩と大書した旗幟を檣頭高く飜して、所謂浮連城を成して堂々と侵入した。その目的は主として日用品を得やうとするに止

まつて、土地などの占領はしない、善く言へば通商を求めたのであつて、相手が要求を容れないときは、忽ち持前の武力を發揮して、法螺貝を吹き鳴らし日本刀を振つて颶風の如く思ふまゝに荒し廻はつた。考へて見ると海賊に違ひないとしても、左手に劍を撫し右手に商賈を握る一種、質の善くない武裝商船隊だつた所もあります。

後村上天皇の正平五年頃から益々猖獗を極めたので、明でも高麗でも度々足利幕府に使を遣はして、頻りに取締りを求めたが、當時の足利幕府はこれを取締る程の力もなく、義滿などは其機會を捕へて明と修交を結んで、幕府財政の窮乏を補はうとしたけれども、豪邁不覇の倭寇は一向左樣なことに頓着せず、相變らず大陸沿岸を侵して居たのであります。その後四代將軍家持は名を神託に藉りて倭寇放任主義を宣明したので、彼等は愈々勢力を增大し、高麗などは已むなく倭寇懷柔策に出で、倭寇を海賊と

して扱ふことを止めて賓客として遇し、倭寇の根據地對島で海賊大將と通商修交條約を結び、年々五十艘の船で通商し、米も要求に應じて與へると云ふやうな好條件で、海賊大將が尻を捲つて隨分ひどい要求をしたものであるが、高麗政府はそれを容れて居ります。

南北朝時代の海賊大將は村上三郎左衛門義弘で、恰も一國の領主の如き勢力を持つて居つた。その後村上山城守師清が相續し海賊を統一して棟梁となり、その長男雅房は部下を率いて大明國へ押寄せ、米穀財寶山の如く掠めて來た。雅房紀明の詮議があつたけれども罪とはならず、却て西海の警固役を命ぜられ、村上氏は爾來代々海賊大將となつた。南北朝から德川の初にかけての海賊は、その當時は海軍と云ふ位の意味で、泥棒のみを指すのではない、それを呼ぶにも海賊大將、海賊衆と云つて居たので

あります。この倭寇の中心根據地は瀬戸内海で、伊豫に近い來島には來島三郎九郎、能島には弘安の役の猛將河野通有の一族村上源氏、因の島には村上三郎左衛門義弘の一族が、代々防禦堅固な館を築いて居り、又九州西海岸肥後五島の根據地には例の五峰汪直が居つた。これは明人で寧波で海外貿易、實は贓品物の問屋をしてゐたが、明の世宗が通商を禁じたので、彼は一族を率ゐて平戸に移住し、支那方面のみならず、南洋諸島まで手を延ばし、また海賊大將村上三十六族と結んで、明王朝の轉覆を畫策したが、これは實現しなかつた。平戸には西洋の船も出入して、慶長七年頃には石造三階建の家が出來たと云ふ繁榮振りであつたと云ふ。倭寇が掠めて來た絹、陶磁器、胡椒、香料等は主として琉球とか基隆あたりで賣拂つたのであるが、買手は大部分支那人及び南方人であつたと云ふことである。

豐臣秀吉は征韓の四年前に海賊を禁じたが、尙ほ八幡大菩薩の旗影に潜んで安南、呂宋、暹羅等に往來する者は絶えなかつた。しかし德川幕府となつて、家康が御朱印船の制度を設けて八幡船を禁壓したので、倭寇は漸次その勢力を減じ、更に寛永十三年耶蘇教の嚴禁から、家光が鎖國令を出して海外渡航をも禁斷した爲め、長い歷史を有する倭寇も次第にその影を失つてしまつたのであります。

これが大體であります。これに依つて見ると、丁度、和蘭や佛蘭西や英吉利等が、東印度會社を組織して、印度方面へ乘り出したのと、この日本の所謂倭寇とは大同小異のものであつたらうと思ひます。例の山田長政が暹羅に渡つて、在留日本人一統を率ゐて國王を援けて叛亂を鎭定し、累進して太子傅となり、更に一國の領主に封ぜられて政治上大成功を遂げんとして、功半にして倒れたのは如何にも殘念であるが、これ

も倭寇の一つの產物であります。呂宋助左衞門は倭寇に伍して二十八反の帆を揚げて南洋に渡ること數回、巨萬の富を重ねて石田三成や松永久秀を說いて、日本の海外發展を策したが、これも成功しなかつた。當時この種の例は澤山あります。また幕末には錢屋五兵衞、高田屋嘉兵衞などと云ふ偉い人が出て、錢屋が幕府の禁を犯して海外貿易を行ひ蓄積した財產は、今日から見ると實に大したもので、加賀藩に處刑されて收沒された色々の財寶中、大判小判、古金通用銀だけでも、三十六萬五千百八十兩と云ふ驚くべきものがあつたと云ふことであります。

そこで私が申したいのは、西班牙や葡萄牙、和蘭、英吉利などが、東洋貿易上の發展から、大なり小なり植民地獲得に成功して居るのに、同じやうな事をした日本の所謂倭寇が全然失敗に歸したのは、どう云ふ所に原因するかであります。今日歷史を讀

んで調べて見ると、それには色々の說があり議論もあつて、中々難かしいのであるが、私の見る所によると、先刻も英吉利と和蘭の經緯の所で述べた如く、英吉利は單に貿易上の見地のみでなく、今日から言へば、そこに若干帝國主義のやうなものを加味して、印度の國王を手懷けて、國土を次第に英吉利の屬地にしてしまはうと云ふことを最初から計畫的に實行した。これに反し和蘭は單に貿易上の利益のみを目的とし、香料とか胡椒の値段を高くすると云ふやうな、目先の利益のみに走つて遠大の事を考へなかつたから、英國から驅逐されたのであると思ふが、倭寇の方は力は餘つて居る、日本の書物にも西洋の書物にも、當時爪哇あたりには日本人が何千人と行つて居つて、日本村が出來て居つたと書いてあるから、餘程の力を以て倭寇が進出して居たものに相違ないと思はれる。然るにそれが成功しなかつたのは、政府がこれを援けないのみ

ならず、危險視して始終邪魔をしたからであります。

徳川幕府が鎖國主義を取つて、日本船舶の海外渡航を禁止し、外國から歸つて來る日本人を死刑に處すると云ふ如き方針を取るに至つたのは、この時分歐羅巴の宣教師などが日本に渡つて、單に布教のみならず、本國政府の手先となつて若干政治上の働きをした。その結果或は大名の不平家と結托したり、或は大名と手を執つて徳川幕府の氣に入らぬやうな事が度々あつて、遂には天草騷動などが起つた。それを段々調べて見ると、皆幾らか外國政府が耶蘇教布教に尻押しをして居ることが分つたので、かう云ふものが日本に出入りすれば、徳川幕府の一つの禍になる、早くこれは禁止してしまつた方がよいと云ふので耶蘇教を禁止した。初めは通商の方は日本の利益にもなり、さう有害なものでもないから、耶蘇教は禁止したが、通商の方は其儘にしておい

た、しかし通商を許しておいて耶蘇教を禁じたところが、それでは矢張り禍の根を絶つことが出來ぬと云ふことになつて、仕舞ひには全部禁じてしまつた。即ち幕府が斯うして禁止し壓迫を加へることになつた爲めに、倭寇が海外に出て大いに活動しやうとしても、後の備へがない、糧道を斷たれてしまふことになつて、日本の倭寇は遂に成功しなかつた。他に事情もあらうが、大體に於てさうだらうと思ふのであります。

(八) 恰も經濟的倭寇時代

——擧國一致の後援を要す——

何故、私はかう云ふ昔の歴史的なことを申したかと言へば、私の考へでは吾々今日の日本人が日本の商品を賣擴めるために、世界の如何なる氣候風土の變つた所でも、

如何なる遠隔不便な所へでもどん〳〵進出して、我商品の販路開拓に努めて居るこの現狀は、全く昔の倭寇時代の日本人が、海外到る所に乘り出して活躍して居るのによく似て居ると思ふからであります。

先達、歐羅巴から飛行機で歸つて來られた淺野總一郎さんの話を聽くと、その飛行機は歐羅巴を出て、ずつと波斯の奥の方から印度の奥地を通つて、新嘉坡に出て參るのであるが、その波斯の奥や印度の奥の山の中、或は沙漠の中に飛行機の宿る小屋があつて、そこで一晩づゝ宿つて來た。ところが其波斯の奥、印度の奥の到底日本人などの思ひも寄らぬやうな、非常に交通不便な所に日本人が居る、何の爲めに來て居るのかと思つて訊ねて見ると、これは大阪から日本の綿布を賣擴めに來て居るんだと云ふことで、非常に驚いたと云ふ。それから段々聞いて見ると、そんな奥地まで行く位

だから、小亞細亞地方でもパレスタイン附近でも、或は阿弗利加の南部でも、南亞米利加の奥でも、今日世界各地日本商人の先鋒隊の到らざる所なしと云ふ狀況である。これは到底歐羅巴人などの思ひも寄らぬことであります。しかも何等政府が保護してやらせるのではない、皆日本の各會社が自發的に自分の商品を賣擴める爲めに、かくまで努力して居るのであつて、その結果、吾々今日まで名も知らなかつた小國が世界に澤山出來ましたが、それらの小さい國に日本の商品が次ぎ次ぎと賣擴められて、年々非常な數量を增加して居る、これが今日の現狀であります。歐羅巴人がこの日本の狀態を見て驚くのは當然のことであつて、吾々日本人でさへも實は驚き入つて居るのである。かくの如き勢ひを以て日本人が進出するとすれば、何者がこれを阻止することが出來るか、英吉利にしろ亞米利加にしろ、また佛蘭西にしても、どうしてこれを

阻止することが出來ますか。

昔の倭寇時代に日本人が成功しなかつたのは、徳川幕府がこれを禁止したからである。若し太閤秀吉にしても、或は織田信長にしても、また徳川幕府にしても、倭寇を援助して海外進出の政策を取つて居たならば、英吉利や和蘭が印度方面で成功する以前に、疾に日本人が成功して、今日地圖の彩を變へて居たらうと思ふのであります。現在の我日本はどうしても吾々の產業を盛んにして、海外に日本の物を賣るより外に年々增加する所の日本人に職業を與へ養つて行く途はない、又どうしても斯う云ふ政策を取らねばならぬと云ふのが、我國の國是であります。假令左の方に近い政府が出來やうが、右翼の政府が出來やうが、或はフアッショの內閣が出來やうが、如何なる內閣が出來ても、年々增加する所の日本人に職業を與へて行くと云ふことに努めなけれ

ばならぬ。職業を與へると言つても、地面には限りがあるし天然の資源にも限りがある。どうしても貿易を盛んにし産業に依つて、この國民を養つて行かなければならぬ、これが日本の國是であります。

この國是の下には、如何なる政府でも産業の躍進を援けなければならぬ。我國の陸海軍の如きも、この國是のために必要な陸海軍であると思ひます。日本の陸海軍は我國の經濟上の進出を援ける一つの隱れたる力にならなければならぬ。吾々は陸海軍の力を翳して行つて經濟上に進出しやうと云ふのではない、けれども擧國一致で經濟上の進出を援けると云ふ以上は、陸海軍の如きは最も賴りになる所の後援者でなければならぬ。卽ち陸海軍もこれを援け、政府もこれを援け、國民もこれを援け、さうして擧國一致で海外に進出すると云ふことであつたならば、世界の何人がこの勢ひを阻止

することが出來やうか、それは到底出來ないと思ふ。日本人が世界に進出するには、今日以上絕好の機會はない、又どうしてもこの難關を突破して躍進を續けねばならぬと云ふのが、日本の今日の運命であらうと思ひます。

（九）軍備は國民の投資

——其力を後に世界市場征服——

今日、日本の輿論として喧ましいのは、赤字公債が非常に多くて財政の基礎を危ふくする、故に財政の基礎を堅固にし健全にしなければならぬと云ふ、所謂健全財政論であります。そこで今申す如く、どうしても日本は經濟上世界に進出しなければならぬことを原則として考へて見ると、私は少しく他の人の見る所とは違ふのであります。

例へば滿洲國は出來たが、無論獨立國で日本の勝手になる國ではない、一つの友邦である。しかし經濟上から云ふと滿洲は吾々の經濟上の一つの活動舞臺であつて、一つの財産である。かう云ふ經濟上から謂ふ一つの財産を日本は得たのであるから、これに向つて何億と云ふ公債を發行し、卽ち借金をすると言つた所が當然であります。實業に從事する者は總て資産と負債と相對して貸借對照表を作る、これに負債だけあつて資産が何もなければ無論健全でないが、一方に資産があつて一方に負債があるのは少しも心配はないのである。私共の會社に社債が殖えた、けれども同時に工場が出來たとすれば、社債と工場が互に對照して居るから、會社の基礎を危ふくしては居らない。借金ばかり殖えて工場も何もないならば、これこそ不健全で會社は危ぶない譯であるが、資産が出來て共所に借金が出來たと云ふならば、借金が殖えても基礎は危

ふくない健全である。斷つて置きますが、これは經濟上から言ふことであつて、經濟上の眼から見れば、今日、日本が赤字公債が殖えて、何十億と云ふ借金が出來たと言つても、それに對する資産も亦殖えたのであるから、少しも心配はない、矢張り健全財政と言へるのであります。

また一方から言ふと、いま日本の貿易が二十一億に達した、非常に躍進して偉いと言つた所で、まだ英吉利に對して三分の一か四分の一程の所で間誤ついて居る。これではいけない、少くとも英吉利の半分位の、三十五億か四十億の貿易はするやうにしなければならぬ、これは私は出來ると思ひます。既往數年間年々五億とか四億とか殖えて來て居る、今年の如きはそれ程增加はしないだらうけれども、或は殖えたり減つたり色々あつても、結局日本の外國貿易は殖えつゝあるのであるから、少くとも近き

將來に於て、今日の二十一億を四十億や四十五億にもしなければならぬ、それをするには吾々が産業上に努力すべきは無論であるが、これを援けるものがなければならぬ。即ち政府が若しも德川幕府のやうな政策を取つたならば、吾々經濟人が如何に奮鬪努力しても、日本人の世界進出は成功しません。これに反して、丁度英吉利人その他が、東印度會社といふ今日の言葉を以てすれば、海賊的投資會社とでも稱すべき極く冒險的な會社を設けて、海外に乘出して亂暴に暴れ廻はつて居つた、それを援けると云ふことが英吉利の利益であつたから、英吉利政府がこれを援け、會社はまた其援護の下に堅忍不拔の努力を以てやつたので、今の印度が完全に英吉利のものになつて成功した、詰り英吉利の國民も政府も之を援けて始めてあれだけの收獲を得たのである。これに依つて見ても、私共は今の日本政府なり國民が、この際經濟上の進出を援けるこ

とに眞劍になつて貰へば、經濟人として必ずこれに成功すると思ふのであります。

それには何と申した所が力が必要であります。外交は力である、力がなければ如何に日本人が勤勉努力であつても、また技術が優秀であつても、産業組織が完備して居ると言つても、これを行ふて世界に伸び行くことは出來ない。その力の一番大きなものは何であるかと言へば陸海軍であります。この力が儼然として吾々の尻押しをして呉れるから、吾々が世界到る所で色々の仕事が出來る譯である、して見れば吾々經濟人からいふと、軍備に金を使ふことは一つの投資である。かう云ふことを言ふことは善いことか惡いことか知りませんが、軍備に金を出すことは、吾々經濟人の進出を圖る一つの資本になり、日本の國民から言へば、軍備は一つの投資になる。投資をしてその力を完備し、その力に依つて産業人が、どんどん世界に力強く進出する。かうな

らなければ共國は發展しないのであります。

しかし軍備は一つの投資であつても、その投資には自ら制限があつて、國力相當の投資でなければならない。即ちその投資は常に國力と調和し均衡を保つたものでなければならぬものであるが、果してどの程度が國力に釣合ひ、或は失して居るかを判斷して誤りなきを得ることは、甚だ難かしいことであつて、一に其時の政治家の力に依るのであります。今日歐羅巴各國はどこの國を見ても、軍備費はその國費の三分の一か四分の一に止まり、日本の如く國費の半分も軍費に費す所はないと云ふ議論もありますが、こゝが難かしい所であつて、日本の如き後進國は、歐羅巴各國のやうに樂々と金を儲けて樂な生活をして行くものゝ眞似は出來ない。卑近な例で申せば、三井さんとか三菱とか云ふやうな、昔から非常な金持は、さう無理なことをしないでも、ゆ

つくり構へ込んで樂々と仕事をして十分成功するけれども、吾々無一物から起つて、素手で一つの仕事をしやうと云ふ者は、金持が金を持つて、ゆつくり樂々と構へ込んで居るやうではいけないと同じことで、日本は三井や三菱の如き金持の國ではない、矢張り素手で以て今日まで叩き上げて來た所の新しい國であるから、總ての仕事が餘程歐羅巴各國よりは世智辛いのであります。故に色々なことに無理があつて困難であるが、しかし共困難を一つ一つ凌いで行かねばなるまいと思ふ。さう云ふことも十分考へて日本の現狀を巧く處理して行くことが、今日の政治家の最も大切な務めではないかと思ひます。

（一〇）今ぞ千載一遇の好機

――退嬰逡巡は禁物――

新聞や雜誌にはよく日滿經濟ブロックと云ふ言葉を用いて居る。近頃はまた日滿支經濟ブロックでやらねばならぬ、と云ふやうなことを申して居るが、私は以前からかう云ふことには反對であります。どう云ふ譯かと云ふと、一體經濟ブロックと云ふ言葉は、英國の經濟ブロックから起つて來たものと思ふ。英吉利が自分の加奈陀とか濠洲とかの屬國を通じて英帝國經濟ブロックを造り、詰り英本國も植民地も一つのブロックになつて、外國に當らなくては英吉利の經濟を護ることが出來ない、かう云ふことがこの言葉の最初の起りであらうと思ふ。日本人は眞似をすることが早い、英帝國

に經濟ブロックと云ふものが必要だと言へば、日本人も直ぐ日滿或は日滿支經濟ブロックが必要だと云ふ。たゞ眞似て言ふだけならば宜いが、本氣でそんな事をやつては困るのであります。吾々日本人と云ふものは、日本と滿洲に立籠つて經濟ブロックを造つて、英國の眞似をして居るやうな吝な量見では、到底この國は護れない。先程來申す如くどうしても世界に進出し、何處までも世界を相手にして行かねばならぬと云ふのが日本の國是であるから、英帝國の經濟の中に立籠つて行かうと云ふ英國とは全く正反對であります。向ふはブロックの中に立籠るもよからうが、日本はさう云ふ守勢的消極的のことはして居られない、世界市場獲得の爲め攻勢的に乘り出すのであるから、經濟ブロックなどは少しも要らないのであります。

丁度、武田信玄の戰ひの如きもので、信玄は城と云ふものを造らなかつた、戰ひを

するときは自分から進み出でて戰つた、攻めることを考へて攻められることなど考へなかつた、だから城などは要らなかつたのであります。それと同じく吾々今日の日本人にはブロックなどは要らない、日滿支で經濟上の提携をすることは宜しいでせうが、何もブロックの城砦に立籠つて、世界から攻めて來るのを防ぐなどの必要は更らにない、信玄流の戰法で積極的に進出して戰はねばならぬのであります。

日本は不健全財政だとか、經濟上破滅するとか、關稅の障壁を設けて日本が壓迫されたら、日本は參つてしまふなどゝ臆病な卑怯な、極く退嬰的な思想を日本人の內部から唱へる人があります。外國人は日本人でさへさう言ふのだから、壓迫を加へれば閉口するに違ひないと云ふので、恰も支那でボイコットをやつたやうに、色々と壓迫を加へやうとして來るのであります。日本は世界がどんな障壁を設けても、如何に壓

迫を加へても少しも困らないで進出するし、また進出する可能性もあつて、國民も政府も陸軍も海軍も、皆擧國一致でこの方針を取つて邁進するのだ、さうして難關あれば難關を突破してやるのだ、また必ずやり得るのであると、かう云ふことになると、外國でも日本品排擊の如き政策を取つても、日本の感情を害するばかりで、日本を苦しめることは出來ないから、やらぬ方が宜いと云ふことになるのであります。

要するに、日本としては今日のやうなことは、實に千載一遇であつて、再び斯る好機に出會すことがあるかないか分らない。吾々個人でもさうである、長く商賣をして居つても、本當にとん〳〵拍子に儲かると云ふやうなことは、十年に一度とか二十年に一度しかない、他は單に儲かつたり損をしたりして通常の仕事をして居るに過ぎない、本當にこゝ一番と云ふことは一生の中に一度か二度ほかないのであります。戰爭

も矢張りさうだらうと思ふ、織田信長あたりでも一番都合の好かつた桶狭間の戰ひのやうなことは、信長一代に何度もありはしない。さう云ふ具合に吾々日本人でも歐羅巴人でも、その國が旭日昇天の勢ひで繁榮に向ふには、無論絶えず努力はしなければならぬけれども、昔から千載の一遇と云ふ言葉がある通り、十年か二十年に一度或は三十年に一度と云ふやうな非常なチャンスがある、そのチャンスを外せば後は平凡であります。相場をやる人に聞いても分る、普通の場合相場と云ふものは儲かつたり損したり、それを繰返すばかりであるが、しかし本當に相場で儲けた人は二十年に一度、三十年に一度好い波に打突かつて儲かる、賢い人は儲けてそこで廢めてしまふと云ふやうなもので、吾々個人でも一生の間に、さう好いことは何遍も來るものではない。

日本の國家も、今日の如き好い波に乘つて、歐米各國をして後に瞠若たらしめると

云ふやうなことは、これこそ千載一遇であつて度々來るものではない。若しもこの時退嬰逡巡して居ると、そのうちには日本の金利も高くなりませうし、日本の勞働賃銀も上りませう、物價も高くなりませう。これに反し歐米の方では日本に對抗するため、組織を改善して製品を安く造ると云ふことも段々出來て來ませう。從つて今日の爲替のやうに日本に有利にならなくなるでせう。國内的にも亦どんな騷動が起るかも知れない、色々の事があり得るのだから、今のやうな狀態が何時までも續くとは思はれない、全く今は天の與へた絶好の機會であります。この機會を外さず、この波に打乘つて日本は突進して行くことが一番必要なことであると、かう私は思ふのであります。

さうして支那でも印度でも蘭領印度でも、吾々に近い所の南洋から亞細亞の諸方面、この經濟上日本の勢力範圍に於ては勿論、世界到る所に日本のマーケットを擴めて我

商品を賣捌き、以て日本の貿易額を今日の倍位に引き上げ、少くとも英吉利の貿易に肉薄するやうな勢ひにまで伸展せしめ、國内の産業を益々隆盛にして國民を富ませなければならぬ。國民が富んで來れば如何なる軍備でも出來て、如何なる强國にもなれる、かうして我日本をして眞に世界の最强國にしたい、これが私の熱心なる希望であります。

米國工業の現狀を觀る

私は「工業日本精神」の整理も怠々にして加奈陀及び米國に旅行し、各地の工場その他を視察しました。そして彼地の經濟狀態が、平素吾々が考へて居るところとは非常に違つてゐるのに驚くと共に、實は吾々が今日まで幾らか米國を買被つてゐたことを覺つたのであります。

勿論、大都會を遠く離れた西海岸地方のみを觀て米國の全體を評するは、東京大阪を見ないで日本を評するの誹があるかも知れぬが、私の觀るところを以てすれば、吾吾經濟人が師匠として崇め奉つてゐた米國の、今日の内情には少々意外のものがあります。これには恐らく日本の經濟に從事して居る人も、社會問題や政治問題に携つて居る人々中にも、私と同じ感じを持つ人が少なくなからう、それ等の人達の參考とも

なり、またこれで自說が確かめられたやうな氣もするので、歸途船中で認めた感想を、そのまゝ、玆に附け加へた次第であります。

（一）米國の勞働賃銀

――賃銀高く爭議多し――

先づ、各製紙工場に就き勞働の狀態を觀るに、職工の勤務時間は一週四十時間、三交替半の制度であつて、一週四日間は六時間勤務し、二日間は八時間勤務すると云ふやうになつて居ります。而してその賃銀は熟練工の極く最高は一時間一弗三十五仙、普通最高一時間八十五仙、普通七十仙位で單に工場内の雜役に從事する掃除夫の如きものにも、最低四十仙（所に依り三十五仙）を支給しなければならぬ。卽ち八十五仙

六時間の職工は一日の收入五弗十仙となり、日雇勞働者の如きも二弗四十仙となる、若しも八時間とすれば前者は六弗八十仙で、後者は三弗二十仙となります。今これを日本貨幣に換算するならば、前者は一日約二十圓で後者は約九圓となる勘定であつて、特別の技能ある熟練勞働者の賃銀一日二十圓は、敢へて驚くに足らずとするも、日雇勞働者の賃銀一日九圓とは、吾々日本人の頭としては到底考へ得られないところであります。

かゝる高率の賃銀を得て居る爲めに、勞働者の生活が益々向上するのは當然であつて、今日では、大概の者は自動車を所有し、休日を利用して家族同乘、何百哩先までもピクニックに出掛けて、悠々嬉々する有樣は全く豫て聞き及ぶ通りであり、またその住居食物の如きも日本の中流以上、否寧ろ上流社會も及ばぬものがあるやうであり

ます。尤も自動車は米國に於ては、既に日常缺くべからざる必要品であつて、裕福の者は常に最新最良のものを備へ、勞働階級の者は古い安價のものを使用して居る。それは恰も日本で自轉車を使用するやうな狀態で、十弗か二十弗も出せば相當のものが買へるし、その稅金の如きも一箇年二十弗位に過ぎないのであるから、一般に普及して居ることは、全く想像以上であります。

私はシヤトルより約百二十哩を隔てたレーモンドに赴き、附近の伐木造材所を實見したとき、偶々晝食時間となつたので、同所の勞働者の食堂に入つて、勞働者と同一の食卓に座し、同一の食事の饗應を受けましたが、その料理の献立は

一肉類　牛肉、豚、鷄

一野菜　ポテトー、豆、トウモロコシ

一菓子　アップルパイ、ブラックベリーパイ

一ミルク、コーヒ、バタ、パン二種

であつて、材料も良く、量も東京邊の西洋料理店の約五倍もあらうと思はるゝほど豐富で、これは此邊では當り前のことであるが、日本の來客には實に意外でありました。その食費は朝、晝、晩共四十仙宛、卽ち一日一弗二十仙で日本金貨三圓六十錢に當る。また其處の勞働賃銀は一日六時間、一時間七十仙であるから四弗二十仙、日本の金貨にすると十二圓六十錢であります。

そこで、かゝる待遇を受け、而して斯くも向上した生活を營む勞働者である、定めて非常に滿足して居るのだらうと思はれるが、決してさうではない。吾々は各地到る所に同盟罷業が續出して居るのを目擊して、如何にも奇異の感なきを得なかつたので

あります。例の有名な艀舟人夫の罷業は最も大袈裟なもので、罷業開始後三、四箇月の日子を經過するも、今尙ほ解決しない。晩香坡市でも、シヤトル市でも、罷業者と罷業破りとが相對立して、時々腕力沙汰に訴へて大騷動となるので、多數の警官は常に警戒を嚴重にして居る。次で大規模のものは造材伐木の同盟休業で、これ亦各地に波及して、騷動絶間なき狀況に見受けられる。その他小なるものに至つては數へ切れないが、一例を擧げると、シヤトル市目拔の場所の某料理店に給仕人の罷業があつて、店主は組合外の者を臨時に雇入れて營業を開始すると、罷業者は同店の店頭にピケッチングをなし、客の出入りの多い時を見計つて、女給や男給が人の目に立ち易い異樣の服裝をして、商賣の邪魔になるやうに仕向けて居る。そんなことに無頓着な客は平氣で入つて食事する者もあつて、營業は差支なく續けてゐるやうなものゝ、同じこと

なら左樣なうるさい店よりも、他へ行かうと云ふのもあるから、客足は幾分か減つて來ると云ふのもあり、またダラー汽船の定期船の乘員が罷業して種々の要求をしたが、要求の主なるものは食事の改善であつたので、これ等は一兩日で解決したやうでありました。

今回の旅行は極めて短時日であつたけれど、何處へ行つてもストライキのない所はなく、この未曾有の不景氣で、さなきだに資本家は惱み拔いて居る時期に、かう云ふ始末であるから實に困難の極みだと、資本家側は泣言を並べて居る。曾て十二年前同じ地方を旅行した時の狀態とは、全く雲泥の相違であります。

元來、普通の考へでは、勞働者の待遇良き時にストライキなどあるべき筈はないのであるが、實際は決して然らず、良ければ良き程ます〳〵種々の口實となるもので、

人を治むるの道は古今東西何れも變りなく、極めて難かしいものと云ふの外はありません。

（二）産業復興法の成績

――生産不引合と失業と罷業――

ルーズベルト大統領の産業復興政策のうち、勞働法の實行は、その理想としては申分がないけれども、實際に於て果してその効果ありや否や、吾々經濟人として大いに疑ひを抱いたところであつて、今回の視察に於ては、この點最も注意を拂ひ研究を試みた所であります。綿密なる立法的議論は他日の機會に讓るとして、私の實地目擊したる實況を述ぶれば、從來米國産業勞働者の勞働時間は、一日八時間一週六日間とし

て、一週四十八時間を以て普通とする原則でありましたが、今回の産業復興法に依りこれを一週四十時間となし、勞働時間は二割を減ずるけれども、勞働者の實收入は、八時間勞働の時と同額となすことを原則としたのであるから、實際に於ては賃銀は二割の引上げをしたものであります。復興法の目的とせる所は、かく實際上賃銀の値上げをなし、これを産業資本家の負擔となす時は、片手落の不公平を免かれないので、産業資本家にはこの賃銀値上げだけを、生産物の賣値を引上げることを許し、以て双方に不公平なからしむる方法にして、而して斯くの如くする事に於て、新たに二割の勞働者に就職の機會を與へて失業者を減少し、これに依つて勞働者の購買力を增加する、それだけ産業界は好況を呈するであらうと云ふ趣旨の下に、本法は組立てられ實施せられたものであります。然るに實施後の實況はどうかと云ふと、勞働時間を一週

四十時間とすることは劃一に實施せられ、賃銀は二割の引上げとなつたが、生産品の値上げは實行されず、却つて續々値下げを見るの實狀であるから、産業資本家は何れも悲鳴をあげ、或者は直ちに工場を閉鎖し、或者はこれを精算人の手に渡し、唯個人資本家で極めて特殊の者は、機械の改良をなし或は經營上の改革を行ひ人手の減少を圖つて以て工場の操業を維持しやうと、鋭意苦心を重ねつゝあるの實況であります。

吾々日本人の考へを以てすれば、折角株主の資本を集めて設立した工場を閉鎖するが如きは、第一株主に對して面目ないところであり、また從業者を失業せしめ、これを路頭に迷はしむるに忍びないから、容易に工場閉鎖はせず、内外百般の改革を斷行して百計盡き、所謂弓折れ矢盡きて後に、泣く泣く血の涙で決行するのでありますが、米國の實際は全然これに反して、株式會社經營者の頭は至極簡單で、引合はぬ工場は

これを閉鎖するのは當然である。時勢の赴くところ致方ないとして、一通りの苦心はするであらうが、最後は已むを得ざる成行として、極めて無雜作に、これを決行するやうであります。而して從業者も、これが爲めに失業するは難儀であるが、政府より從業者一名に付き一箇月三十弗の手當があり、外に妻子一人に付き一箇月五弗宛の食費の給與があるから、差當り生活に困る心配もなく、呑氣にこれを受入れて、唯「困つたものだ」と言つてゐるに過ぎないのであります。

また工場或は産業を、精算人の手に渡す制度も、日本の制度とは全然異つて、米國人の氣風を代表した一種の制度であります。卽ち昨今の如く不景氣に加ふるに賃銀は値上げとなり、生産品はその反對に下落して不引合となり、借金は嵩むし、原料その他の買入品の代金も滯り勝ちとなつて、經營上苦痛を感ずるやうになると、經營者は

直ちに一切の支拂ひを停止して破産を申請する。裁判所は債權者の會議を招集して直ちに精算人を選定し、精算人をして引續き工場を經營せしめる、精算人は多くは工場經營に經驗ある者から選定せられ、從來の支配人以下就業者を全部その儘使用して操業を繼續せしめる。故に表面から見ると會社の仕事は平日と更らに異るところがない、たゞ違ふのは社債、借入金、買掛等の債務の元金及び利子の支拂ひを免かれるだけの點であります。私は豫て、この制度は頗る妙味ある制度であるから、これを日本にも輸入して日本の破産、精算等の制度を改革して、多少實地運用の便を開いたら何うかと心がけて居つたので、今回は特に種々立ち入つて、內部の實況を取調べたのでありますが、利のある所また害を伴ふは免かれぬならひで、米國の破産法は、かく實際的で頗る融通性に富むために、經營者は兎角これを濫用する傾きがあります。各地の工

場は勿論、堂々たる大鐵道會社、最新式の冷房裝置などを施し、倶樂部車などと稱して理髮もあり風呂もあり、設備萬端申分なき大鐵道會社が、內實は精算人の手に渡つて運行一切を精算人に任かせ、社債も借入金も元金も利子も、悉く仕拂はないと云ふ極端な例もある。今日不景氣の然らしむるところかは知らないが、大概の工場は精算人の手に在ると云つても、强ち過言でないほどの實況であります。しかも工場のみではない、桑港第一のホテルに宿泊して、設備も完備してゐるし、至極閑靜ではあるし、これは申分ないと喜んで居ると、何んぞ知らん、これ亦精算人の手にあるのだと聞くに至つては、實に驚く外ないのであります。

また第一の精算人の手で經營して相當成績を擧げれば、債權者も裁判所も、その儘經營を繼續せしめるが、成績が良くないときは、更らに第二第三の精算人の手に渡す、

私が實際接觸した某製紙會社の如きは、四人目の精算人の手に渡り、殆んど十數年間精算人の手で經營して居ると云ふのであります。かう云ふのは極端な例の一つであるけれども、私の觀るところでは、この制度の實際上の長所をば、今日の米國人が悪用しつゝあるのではないかと思ふ。故に、この制度を日本に輸入するにしても、この儘を移植する如きは大いに考へもので、商法の專門家をも煩はして、尙多くの研究を重ねる必要があると思ふのであります。

米國の工場の中にも、表面は株式會社であるが、實際は個人經營に屬するものは、吾々日本人などゝその考へを一つにし、今日のやうな不況に際しては一切萬事節約主義を採り、生産品の原價を切下げて、經營を維持しやうと努力する者も亦尠なくないが、しかしこの努力たるや、日本人の如く命がけのものではなく、表面一通りの努力

に過ぎないやうであります。假りに一通りの努力でもやつて居る工場は着々成功してこの不況の場合でも相當成績を擧げて居るのであるが、眞の株式會社には、この例は甚だ少ないやうであります。諸事節約、生産原價引下げに努力する工場では、賃銀の引下げには手を觸れることは出來ないから、多くは人手の減少を圖り、一方に生産を增加する工夫をすると共に、從業員の解雇をしやうとする傾向があり、また工場内に於ける供給品の値上げ、舍宅料の引上げ、食費の引上げ、または品質の引下げ等をなすものもあつて、これが爲めにストライキが起つて來る。昨今の如くストライキの多いことは、米國には未だ曾て類例のないことであります。しかも現政府は常に勞働者を支持し、殊に勞働組合を援けてその勢力を助長し、これを後援者として次回の選擧を爭はんとする傾きがあると云ふので、資本家の不平は實に囂々たるものがありまし

た。また産業復興法の結果、政府は同盟罷業者にも罷業中失業手當を支給するので、昨今のストライキは何れも相當に長引き、製材業者の罷業でも艀舟人夫の罷業等でも三、四箇月に渡つて今尙ほ解決しないものが多いのであります。資本、勞働兩者に各相當の主張はあらうが、何れにしても米國産業のためには、非常な不利であることは事實であつて、吾々外國人には好き參考となるものであります。

かやうな次第で、要するに産業復興法實施の結果は、勞働者側としては、賃銀は引上げとなつたが、實收入が增加したのではなくて、單に就業時間の短縮に止まり、これが爲めに資本家との間に種々のいざこざを生じ、人員淘汰、食料の引上げ(事實上)となつて、從來に比すると却つて多少の不便は免かれないから、大いに滿足と云ふ譯ではない。また資本家側はさなきだに不景氣のため、生産品の賣行き不振で、政府が

說明したやうな値上げなどは思ひも寄らず、却つて益々値下げの已むなきに至り、名狀すべからざる困難に陷つて居る。その結果、勞働時間の減少するだけ、勞働の需要を喚起すると云ふやうなことは、全く夢の如き理想に終つて、反對に益々失業者を多くし、同盟罷業頻發して、資本勞働兩者經濟上の不利を多からしめるのみならず、その間隙に乘ずる赤化主義者の活躍となつて、社會不安を誘發し、政府もその始末に困り拔いて居る、かう云ふ現狀に見受けられるのであります。

(三) 事業會社の內情

——意外のもの多し——

私は今回偶然の必要があつて、米國に於ける會社事業經營に關する內情の取調べを

したのであるが、その結果、少々意外に感するものがあります。元來、米國人の商業道德は、吾々日本人に比し遙かに優越であると一般に信ぜられ、吾々は努めて米國人に學ばなければならぬと敎へられもし、また自らも度々同地に遊んで左樣に觀、且つ察して居つたのであるが、事業界內幕の惡辣危險なる實狀は、日本に比して兄たり難く弟たり難し、と云ふよりも、寧ろ日本よりは一層甚だしいものがあるやうであります。

日本に於ても、會社事業の發起設立等については、隨分如何がはしいもの多く、ために善良なる株主を害することが甚だ少くない、何とか今少し取締の途を講じ、殿直にこれを監督する方法はないものかとは、識者の常に慨歎するところであるが、米國はこの點に於ても日本よりは、更らに油斷のならぬ內情を有つて居るやうであります。

會社の發起人が、如何がはしき個人事業などを現物出資となし、これを相當巨額に評價して不當の利益を占め、更らに土地または山林の買入れにつき、或ひは工事請負につき、または水利權その他につき、內々にて不當の利益を私することは、日本にても今日は有りふれた事實として、何人も承知して居るところであるが、しかし日本では會社設立後も、株式會社は必らず每期每にその決算をなし、これを株主總會に公示して承認を求めねばならぬ。尤も會社創立の報告も株主總會の報告も、多くは單に一片の形式に過ぎぬ宜い加減のものが甚だ多いのであるから、それをするからと云ふて、日本の會社が信用ありと信ずる程の者は、恐らく日本にも甚だ少ないであらうけれども、米國では各州にて商法も異なることであるから、一般に斷言する譯ではないが、一普通の商事會社は、日本の如く會社設立に關する詳細なる報告、または每期の決算報

告も、一般株主に公示する法律上の規定はないやうであるし、法律上の取締りは極めてルーズのやうであります。勿論裁判所は一々これ等の點につき監督する制度には相違ないが、表面の法律上の規定は兎も角、實際は殆ど無監督と云ふも差支ないやうであります。故に發起人は固より重役なども、吾々の眼では全く信用されぬやうな、隨分亂暴なことをする者が多いやうであります。その極端なる例を擧ぐれば、玆に某々發起人があつて、個人經營の、殆ど無價値と云つてもよい古い製紙工場を買入れ、これを現物出資として會社を設立した。その評價の差額で相當の收得をなしたのは勿論、新工場の建築請負についても、相當の利益を懷にしたこと亦當然である。かくて株主の拂込金だけでは、資金不足であるから社債を募集する、社債募集の手續きは日本と大同小異であるが、たゞ異なるは日本の社債募集の仕事は、多くは信用ある銀行、または信託會社で引受け一定の手數料にて一般に募集し、時としては下受けとしてブローカーを使用することがあつても、これ亦確實なる證券業者に限られ、且つその手數料も餘り巨額のものでないから、弊害も從つて甚だ少ないのであるが、米國でも紐育、市俄古邊の信用確實な大會社または大事業ならば相當信用ある大銀行、或は大信託會社で嚴重な商取引が行はるゝであらうことは疑ひないけれども、私が今回視察した西海岸の如き、申さば僻遠の新開地に於ては、その手段の如何にも巧妙且つ陰險なものあるには、少々驚かざるを得ないのであります。卽ち會社の重役は、その地方の銀行及び信託會社の當事者に對し、表面頗る有利確實に見ゆる會社の目論見書を提出し、第一に會社の前途甚だ有望なることを信用せしめて、これに多額の引受手數料を提供する。地方の銀行または信託がこれを引受くれば、會社重役はこれと提携して社債募

集人なる一種のブローカーを使用し、これにも亦相當高率の手數料を支拂ふ。ブローカーは事業の前途、會社重役の信用、社債應募者の利害などは更らに念頭におかず、單に手數料さへ收得すればよい譯であるから、各地到る所に出沒奔走して、巨額の現金を所有して低利に銀行または信託に預金し居る者などを歴訪して、言を極めて巧みにこれを口說き落す。資産家の第二世とか、亡夫の遺産を相續した未亡人など、世の中の風波を知らずして一躍富豪となつた人達の中には、ついその甘言に陷れらるゝ者甚だ多く、米國は日本とは異り國も廣く金持も多いのであるから、數百萬弗の社債位は譯もなく募集滿株となる。特に好況時代には數百萬數千萬弗の社債も、かう云ふ手段で續々募集されたと言ふことであります。

社債募集のことが首尾よく成功すれば、重役はこの資金で工場建設、事業經營等一

切の仕事を完了する。而して事業上は豫ての目論見通り利益なく、相當損失があつても損失は事業費などに繰入れ、社債の利子も支拂ひ、利益の配當をも繼續し、表面上相當好成績なるが如く吹聽して、また同樣の手段で第二第三の社債を募集し、更らに擴張增設をすることは、日本に於けると少しも違ふところはありません。

かうして、數年後いよ〳〵行詰つて、配當は勿論社債の利子すら支拂ふことが出來なくなると、破産を申請し精算人の手で事業を經營することになる。重役は何とか手を廻はして自ら精算人となつて、當分これを經營し、今度は事業の見込みなきものとして公賣に附す。さうして一般には極めて不利な悲觀的の內情を放送するから、競賣に應ずる者がない。そこで殆ど二束三文の値段で自らこれを競落して、自分の私有工場としてしまふと云ふ順序であつて、かう云ふ類例は甚だ多いやうであります。日本

ならば法律上は兎も角、實際上かゝる重役は種々の制裁を受けることもあり、世人もその儘默過はしないのであるが、米國では國民の氣風が、その點極めて呑氣で、強いて咎め立てする者もないやうであります。私は今回かくの如き工場も視察し、且つさう云ふ人物にも接觸して、少々意外に感じた次第であります。

米國は各州それ〴〵法律を異にして居るので、日本の如く一律一體に考ふることは出來ないが、一般に株式會社と稱するも、プライベート・コンパニーなるものは日本の合資會社に匹敵し、パブリック・コンパニーなるものが、日本の株式會社に相當して、創立の手續も、決算報告も、株主總會も日本の株式會社と同樣の手續をなすやうであります。從つて大會社を設立し、大事業を堂々經營の任に當る場合の如きは、相當立派な人物がその衝に當り、同時に信用を重しとすることであらうが、各地方に散

在するプライベート・コンパニー中には、如何がはしいもの甚だ多く、殊に西海岸地方の製紙會社などには、この類のものが無數あるやうであります。

(四) 工場經營の不經濟

——驚くべき原料の無駄——

米國の工場經營に無駄の多いことは、既に周知の事實であるが、それにしても今度視察した西海岸各地の工場はど甚だしきは、實際を見ない人々の到底想像も及ばぬところであります。

例へば、山林は何れも海岸に接近し伐木後直に海に落すか、または鐵道を敷設してこれに積込み得るやうな便ある地方のみ伐木して、少々不便で經費の多い箇所は一切

着手して居ない。伐木は普通十五吋以上の大木のみで、その以下はロッキングシステム（機械的搬出法）の犠牲となつて、總て薙倒されたまゝ、恰も箒を散らした如く、亂雜に山中に曝されてある。日本人の眼から見ると、十五吋以上の良材はこれを製材用に供し、その以下の山中に捨てて顧みないものも、搬出して製紙用材とすれば、第一に山林の整理も出來、第二には立木代も助かり、第三には火災の危險も無くなるし、第四には今後の天然更新の利益ともなり、何れより見ても非常に經濟的であらうと考へられるのであるが、今日の米國人は、更らにかう云ふことを念頭におかず、眞面目に考へる者もない狀態であります。

原料材が工場に着いた時は、十五吋以上二十吋乃至五十吋以上の大木ならば、これを五六吋の板に挽き割り而してグラインダーに送り、更に又チップとして木釜に送る

ことは、日本に於ける工程と異なるところはない。たゞ西海岸何れの工場でも、グラインダーは凡てポッケットにしてマガジンを用ゆる所は一箇所もない。その譯を聞くと挽材を原料とする所ではマガジンは種々都合惡いところがあるやうであります。脊板の中で多少黑皮の附着して居るものは、これをドラムバーカーに掛けることは日本と同樣であるが、しかしその大部分をボイラーに送つて燃料としてゐるのは、甚だ不經濟の仕事振りで、唯々驚く外はないのであります。

米國の挽材工場を參觀した者は、直に氣の付くことであらう、勞働の節約は申分なく何事も機械の力を借りて、巧を極め妙を盡して居るが、原料を驚くべく無駄にすることに付ては、何人も怪む者はないのであります。私は晩香坡に於て新西院に到り、河の兩岸に併立する挽材工場を見渡し、世界一なりと稱する大挽材工場を視察して、

この河下にパルプ工場を建設し、屑材を以て原料とし鋸屑を燃料として、日本式の經營法を以てするならば、成功疑なき工場を設立することが出來ると放言し、何故米國人は、これに氣付かないかと話合つたことであります。然るにその後ポートラントに赴き、ロングビウに於て有名なるウェーヤハウス氏の挽材工場を參觀すると、同氏はその挽材工場の隣接地に年産六萬噸の晒パルプ工場を建設し、挽材の殘屑を以て原料とし、鋸屑及び廢材を以て一萬キロの發電機を運轉し、且つ廢蒸氣を利用してパルプを乾燥して居る。私はこの實況を見て流石に同氏の慧眼に敬服した次第であります。

今や、パルプは生産過剰で市價低下し、各パルプ工場共不引合を歎息しつゝある時、同工場のみが豫想外の利益を擧げて居るのも、故なきにあらずであります。同氏は更に擴張を計畫して居るのみか、レーモンドに於ける同氏所有の挽材工場でも、同樣の

新工場を設置しやうと、專ら計畫中であると聞きました。かく米國人中にも相當具眼の人があつて、節約經濟を心懸けて居るのは當然のことであるが、しかし無駄多き米國なるが故に、この位のことで成功するのであつて、吾々日本人の眼より見れば、まだ〳〵節約と云ふことには緣遠いものと考へられるのであります。況や一般のパルプ業者、または新聞紙工業者などの仕事振りの不經濟、不節約振りに至つては、洵に想像外であつて、私が或るとき試みにその一端を語つて、加奈陀の某製紙會社長の意見を質したところ、社長は一言の下に「米國人は、元々仕事にかけても節約の國民でないから、致方ないことだ」と答へたので、私もその話は、それで打切つてしまひましたが、主なる原料である木材の使ひ方さへ、かう云ふ始末であるから、その他の原料たる硫黄にせよ、石灰にせよ、種々の藥品總てに不經濟のことは當然であつて、唯々勞

力の節約のみに全力を注いて居るやうであります。

吾々日本人は、米國に比すると四倍から五倍の高價な立木を使用しつゝも、生産原價に至つては同國に劣らず、製品の品質に於ても、彼に勝るとも下ることなき製紙及びパルプを生産し得るのは、單に勞働賃銀の低廉ばかりではなく、全く事々物々、節約に節約を主眼とし、細心且つ綿密にこれを處理し經營するからであります。これは日本人の長所である、後人はよくこの點を考慮し、ます〳〵我日本人の、これ等の長所發揮に努めねばならぬと思ひます。

(五) 米國西海岸森林の荒廢

——輸出は益々困難となる——

米國西海岸地方、殊にワシントン、オレゴン兩州沿岸各地は、今日まで木材の生産地として、既往二、三十年間巨額の木材を輸出し、同時にパルプ、製紙の事業を營み、共に相當隆昌を極めたのでありますが、今回實地を視察したところに依ると、米國は流石に大國で森林の面積も廣く、且つ蓄積も巨大であるから、日本の考を以て律することは出來ないが、しかし年々伐木量も亦多額であるし、伐採跡地は樺太や北海道などと同じく、殆ど全部と云ふて差支なきほど火災に罹り、稚樹養育など更らに着手せられて居らない。昨今に至つて、政府は聲を大にして殖林または稚樹育成などを助成し始めたが、これはたゞ掛聲のみで、實際の効果は皆無と稱しても過言でないやうであります。ワシントン州では五月より九月まで、汽車の窓から煙草の吸殻を投ずる者は、二百五十弗の罰金、または九十日の禁錮に處する法律がある。また釣魚のため無

鑑札で入山し、徒らに焚火などする者は、監視人これを銃擊するも差支なし、と云ふ取締もあつて、一通り山火防禦の注意は行屆いて居るやうであるが、今回の旅行でシャトル地方視察中は各地到るところ毎日山火事があつて、空は一面白煙に蔽はれて居りました。地方の人々に聞くと、政府が高い人夫賃を支拂つて防火に努めて居るは事實だけれども大した効果なく、全く手の下しやうがないので、自然鎭火を待つばかりであるから、數日若くは數十日も續くことがあると云ふ話に、私は往年の樺太山火事を想起せざるを得なかつたのであります。

故に、山林の荒廢は年々非常の面積に上り、その結果、昨今木材の輸出ます〳〵困難となり、西海岸各地方でも今後當分木材輸出に見込みあるものはグレース、ハーバー地方を主とし、その他の各地方は多少宛はこの事業を繼續することは勿論であるが

從來のやうに巨額の輸出は困難であらうと思はれます。

今を去ること三、四十年前、ニューウイングランド地方に製紙業が勃興し、非常に繁昌を極めた際は、同地の木材原料は殆ど無盡藏であるかの如く考へられ、何人もその將來を慮るものはなかつたのでありますが、今日は業に已に悉く伐採し盡くして、製紙及びパルプ原料材に缺乏を告げ、東部加奈陀よりの輸入に待つの狀況であることは、人の能く知るところであります。殷鑑遠からず西海岸地方今日の隆昌は、果して何時まで繼續するか、歴史は繰返されば仕合せであります。

（六）加奈陀及アラスカの森林

——羨むべきは加奈陀の美林——

加奈陀西海岸の森林は實に美事であります。製紙業の發達も未だ初期搖籃時代を出です、木材事業また同樣であつて、米國西海岸の如く濫伐の慘害を蒙つてゐるのは、單に晩香坡附近と晩香坡島の一部に過ぎない。その他は殆ど全部天然の美林をその儘保存せられて、晩香坡よりアラスカに至る海岸約一千哩は、ヘムロック、シダー、フアーの四種處女林脈々と連なり、實に羨望に堪へないものがあります。所々に點々伐採の跡あるは、附近に製材所、またはパルプ工場が設けられたことを示すものであるけれども、これとて外部から見れば、未だ少しも天然を冒すと云ふ程度には達して居らない。しかも同地方沿岸は、日本の瀬戸内海の如く島嶼點在、その間を何萬噸の船舶でも航行自由であり、水深も相當あつて、到る所天然の良港灣をなし、積取りも自由自在である、また大筏を編制して何百哩でも運搬することも出來る。更らに到る所

に工場を建設して、大洋航行の船舶を横付けすることも出來る。それ等の點は樺太北海道などゝは、全然趣を異にした天然の好條件を具備して居るのであります。

今は木材事業も、製紙パルプの事業も不引合の爲め、操業短縮工場閉鎖等相踵ぐ有樣であるから、この地方の森林開發は更らに進渉の跡を見ないのであるが、今後幸に世界の景氣が好轉し、製紙パルプを始め木材事業が再び隆昌勃興の時代ともならば、先づ第一の地歩を占めるものはこの地方であつて、歐洲に於けるスカンデナビヤ、フィンランドの如き地位を獨占するであらうと思はれる。

而して此地方は我日本とは、實に一葦帶水の地で地理的近接の便があり、交通は最近非常に發達して、加奈陀、米國、日本の三大優良定期航があつて、殆ど二十年前の大西洋に於けるが如く、各社何れも待遇上の競爭をなして、相共にその設備を改良し

その取扱を便利にし、乘客をして共に航海を樂み喜んで、全く家鄉に在るの思ひで旅行せしむるに務めつゝある。一方荷物を專らとする定期、不定期の船舶も亦頗る多く、殊に日本汽船の活躍大いに見るべきものがあるから、樺太または滿洲などの僻遠地方に比べて、遙かに便益なりと感ぜられるのであつて、旁々前途はます〳〵有望であらうと思ふのであります。

併しながら、加奈陀政府は傳統的の政策として、パルプ原料材の輸出は全然これを禁止し、專ら地方の繁榮を圖るの政策を堅持しつゝあるので、日本に於ける原料の缺乏をこれに依つて補ふ譯には行かない。さればとて進んで同地に工場を建設すれば、同地方の法律の適用を免るゝことが出來ない。勞働法その他殆ど米國と大同小異であるから、我國の十倍乃至十四、五倍の高賃銀を支拂ふて、比較的能率の良くない白人

勞働者を使用しなければならぬから、吾々日本人の長所たる經濟的經營法を移して、その獨特の技能を發揮することも甚だ困難であらう、從つてさして妙味ありとは思はれない。强いてこれを實行すれば、同地方の現狀に於ける如き、不成績不利益の苦杯を嘗める結果に陷る憂ひが多分にあります。

またアラスカの森林は、加奈陀國境よりスカグウェー附近に至る沿岸は、加奈陀地方に殆ど等しき美林で、樹種の優良なことも、積取りの便多きことも大差はないが、北部に進むに隨つて立木は次第に細小となり、一町歩當りの蓄積は漸次低下するやうであります。尙ほ同地方の海岸は一般に暖流のために、冬期冱寒の際でも格別溫度は低下することなく、北緯六十度の地點などでも、南部樺太の寒氣と殆ど同樣と見て差支ないやうてあるが、一旦海岸を離れて內地に入ると、その寒氣は實に酷烈を極め、

八月下旬吾々が旅行中既に四方の山々は初雪の皚々たるを見たほどで、冬期も長く零下五六十度に降る期間も長く續くであらう。從つて多少樹木はあつても發育を妨げて森林としての價値あるものは殆どない、故にアラスカは海岸通りを除いて內部には、恐らく森林なしと見て差支なからうかと思ひます。而して米國政府でも同地方開拓に若干の資金を投じて、相當の努力を拂つて居るやうであるけれども、實際の狀況を見ると軍事上の必要から、或は陸軍の設備を爲し、或は海軍の要港を設くるなど、相當の施設が着々と進行し、一方加奈陀政府と協力の上、米國西海岸の自動車道路を加奈陀を通じて、アラスカに延長しやうとの計畫があつて、これも着々進行中であると云ふことであるから、勿論今後多少開發の見るべきものがあらうが、今日のところでは、これ亦たゞ掛聲だけで、實際は大したことはないやうであります。

（七）西部加奈陀の製紙工業

——何れも不引合に惱む——

東部加奈陀は、現今世界の製紙工業に於て王座を占め、スカンデナビヤの歐洲に於けると同じく、その發達實に驚くべきものあり、政府の政策としてパルプ原料材の輸出は全然これを禁止して居るので、米國の資本家は何れも加奈陀に來て、東部地方に於て主として新聞紙工場を營み、今日では米國の需要する新聞紙の約七、八割までは加奈陀から輸出するやうであります。その原料は日本や歐洲の製紙原料と同じく、六、七吋以上の細小の丸太材であつて、これ亦殆ど無盡藏として、その將來に意を留めるものはなかつたのであるが、年々伐採量の激增と共に、昨今は次第に奥地に入り、不

便な場所に進んで仕事をしなければならぬやうになつて、新聞紙の市價は年々低落して、さなきだに經營困難の際、原料は年々多少宛引上げられるから、東部各製紙會社は引合ふものなく、何れも歎聲を漏らし同業者は頻りに相會して、市價引上の交渉に懸命でありました。

西部地方は、東部に反し製紙工業の發達は、近年漸くその端緒を開いた位のもので一、二稍や大規模の工場がないでもないが、何れも舊式小規模のもの多く、パルプ工場等も亦同樣であつて、日本に比すれば製紙もパルプも、幾分見劣りする狀態であります。尤も中には千五百呎以上の高速度抄紙機を据付け、現に千二百呎の速度を以て運轉中のものもあるけれども、一般には舊式を免かれない狀態で、パルプ工場も亦同樣その設備も規模も、これと云つて參考に値する進歩の跡なきには、少々案外の思ひ

がした譯であります。要するに、米國の西海岸地方は、東部地方に比すれば開拓も後れ、人口も少なく文化の程度も隨つて同日でないから、紙の需要も少ないので、東部地方のやうに大組織の大工場を打建てゝも、採算上引合はぬ爲めであらう。今回視察した各地の製紙工場中、相當利益が擧つて居るやうに思はれるものは殆ど例外で、大部分は多少の損失であらうと見受けられ、殊にパルプ及び新聞紙のみを製造する工場は全部不引合だと言つても差支ない狀態であります。

何故にかゝる狀況を呈するのか、原料は日本の約四分の一乃至五分の一で、全く夢のやうな低廉であるが、勞働賃銀は日本の十倍乃至十四、五倍も高い。また國內及び西海岸に接續する米國各都市の人口は、ロスアンゼルスの百萬を除いてはシャトル、ポートラント、桑港、サンヂャゴー等、何れも二、三十萬乃至四、五十萬人に過ぎな

いので、製紙の需要も大した額に上らない。と云つてこれを東部米國方面、紐育、シカゴ地方に輸送するにしても、運賃諸掛りに相當の巨費を要し到底引合はない、日本及び支那地方を始め濠洲など、地理的便宜ある地方に輸出しやうと努めても、これ亦今日の時價では引合ふべくもない。これが卽ち加奈陀西海岸地方の製紙事業が、かくの如く不利且つ不振の主なる原因であります。

米國にも亦慧眼なる企業家があります。損失續きで破産精算人の手中にある新聞紙及びパルプ工場を、極めて低廉な價を以て競落し、これを根本的に改造して種々雜多の用紙を造つて、新しい用途の喚起に努めて居るのがあります。卽ち新式の包裝用紙、壁紙、トイレット用紙、箱紙、セメントまたは肥料等の袋紙の外に、果物の箱紙、紙製テーブル掛、紙製の食器、皿、ナイフその他數へ切れぬほど種々の新工夫を凝した

用紙を造つて、これを次から次に賣出し相當の收益を擧げて居るのを見受けました。殊にトイレット用紙の如きは、全然日本に於ける日常懷紙の模造品であつて、吾々日本人の眼よりすれば、齒牙にかける程のものではないけれども、それでも米國人には眼新らしく、且つ斯業の大發明かの如く放送するので、相當需要があると聞きました。また以て一般の狀況を察すべきであります。

（八）彼の機械力、我の日本魂

——日米工業の短所と長所——

私が今回視察した加奈陀及米國西海岸地方の、パルプ並に製紙工業の狀況では、技術上に於ても設計上に於ても、日本より大いに優るものは發見出來ない。彼我の優良

工場を比較する時は、少なくとも操業上に於ては、日本に一日の長あるを感じたのであります。

目下、日本と加奈陀との間には關税の衝突があつて、同地のパルプは日本に輸入不可能であるから、日本輸出を營業の眼目とするパルプ工場が非常に苦境に陷りつゝあるは當然であるが、假りにこの事なしとしても、前述の如く加奈陀地方パルプ工場は勿論製紙工場が、何れも採算不引合をかこち、相當收益を擧げつゝあるものは殆ど例外と言つても差支ない。米國西海岸また然りであるが、日本では如何なる製紙及びパルプ工場でも、昨今に於ては皆相當の利益を收めて居るのが普通で、損失は殆ど例外であると云ふ彼に反對の現狀であります。

要するに、日本に於ける今日の一般經濟上の好況は世界獨歩であつて、歐洲各國も米

國各地も、これに比するものなき幸運に惠まれて居る事實は、一度足を外國に踏入れた者の等しくその有難味を痛感する次第でありますが、畢竟するに、日本がこの幸運に際會したには、種々の原因もあり、人力の外に天然の運命に助けられつゝあることもあつて、一朝一夕に論斷することは、固より難かしいことであり、また米國加奈陀と云ふも、大都會を離れた僻遠の西海岸地方を見てその全體を評し、これを以て日米の工業狀態を比較對照しやうとすることは、恰も北海道樺太を視察して、日本の全工業を批評するが如き誘を免かれないであらうけれども、しかし物の一端を見てその全貌を推測することも亦全然意味なきことではないと信じ、彼我工業、特に製紙工業の優劣につき所感の一端を述べて見やうと思ひます。

第一技術上の點から見ると、何と言つても機械の發達は、米國の最も長所とすると

ころで、その技術の優秀なるには、日本は未だ到底及び得ないやうであります。一例を擧げると、いま頻りに建設中の桑港からウォークラントに至る橋梁は、長さ二萬三千呎、鐵塔の長さ五百十九呎で、それが自動車路と、電車路と、人道との三條に區分され、その下を大洋航行の船舶が自由に通過することが出來る。また同時に起工された桑港、金門間の所謂金門橋は、長さ八千九百四十呎、鐵塔の高さ七百四十六呎であつて、前者は總豫算七千七百萬弗で一九三七年一月、即ち四年間で竣工の豫定だと云ふことであるが、日本では例の馬關海峽の橋梁、または隧道が多年の問題となつて居りながら、今尙ほ解決しない。聞く所によると、鐵道省の計畫第一案（門司寄り）の距離は海底、海底外合計五千八百七呎、第二案（大里郊外）は海底、海底外合計八千七百六十呎で、鐵道と自動車道路と別々に建設しやうと云ふ設計であるけれども、實は

その設計も未だ決定しないそうである。假りに設計が決定したとしても、完成までには、少くとも十年を要するだらうことは、何人も疑はぬところであります。日本の技術家中には、金さへあれば三、四年で完成させることは不可能でないが、何分豫算なきを如何せんと言ふ者もあらう、一應尤もにも聞えるが、少々困難な問題に際會すると、いつも豫算に藉口して責任を免かれやうとするのは、日本人の癖であるから、私はこれは決して金の問題でなく人の問題だと思ひます。我日本の機械工業は、今日漸く歐米の壘を摩するに至つたことは事實であるが、大組織を完成し、而して大事業を速成せんとする段になると、殘念ながら今尙ほ歐米人に劣ることを認めねばならない。馬關海峽の殆ど二倍半もあらうと云ふ桑港ウォークラント間の橋梁が僅々四箇年間に完成しやうとするのは、大概の仕事は一切機械力を以てし、巧みに種々の機械を應用

するから、勞少なくして効果大なる結果であつて、この點日本人の遠く及ばないところであります。また各製材工場にて一人の職工が、タイプライター樣の機械を叩いて、各種各樣の木材の長さ、幅を一定し自由に製材し居る現狀などを見ては、何人もその機械力の發達に驚かざるを得ないのであります。

製紙工場等でも、勞力節約の諸機械力應用については感服に値する點が尠なくない、これは要するに高賃銀に苦むためと、また多量生產をモットーとする方針にもよるであらうが、一體に米國人は機械の取扱を好み、從つてこれに習熟し色々の工夫を凝らすことに興味を有つて居るのであつて、工場內にて日本ならば無意味に多數の人を使用するところを、米國人は大した裝置など施さずして、巧みに人手を省いて居る所が多い、日本人の大いに學ぶべき點だと思ひます。元來、日本人の技能は決して米國人

に劣るものではないのであるが、たゞ機械工業などには後進であつて、鋭意歐米と肩を並べやうと努力しても、當方にて漸く追付いたと思へば、先方は更に一歩を進めて居るといふのが、今日迄の狀況であるから、日本の技術家としては、この所大いに奮發を要する次第であります。

米國勞働者の賃銀は日本に比し非常に高額であることも驚くべきであるが、各勞働者共その仕事に對し、責任を重んずる觀念の强いことも、遙かに日本よりは勝つて居る、時間の觀念も日本人よりは確かに正確なことも事實であります。また米國は世界の富を獨占すると云はるゝほどの富裕の國柄だけに、金を惜まず思切つて優秀の機械を据付け、工場の建築も立派で、設備萬端に資金投下を意としない風があつて、何れの工場へ入つても一見して日本に勝つて見える。しかし斯く吾々の眼より見れば贅澤

の仕事をする米國でも、直接仕事に必要のない所には、金を惜んで節約する。例へば事務用の器具などは、日本の方が少しく見すぼらしいけれども、事務所などは日本の方が概して遙かに金をかけて居るやうに思はれます。

以上は米國及加奈陀各地を視察して、その長所と感じた點であるが、然らば日本が米國に勝るものはないかと言へば、決してないのではない。日本の世界に誇るべきものとして、第一に數ふべきものは、何と云つても吾々日本人の勤勉努力であります。會社でいへば上は重役支配人より、下は職工小使の末に至るまで、工場全體の從業員が營々として骨身を惜まざる情景は、米國などでは類例を見ることが出來ないのであります。米國や加奈陀人は時間の觀念も嚴重で、責任感も強いから各自擔當の仕事に對し渾身の力を盡くし、他人をして嘴を容れしめるやうなことのないのは事實である

が、何分國民の氣風が日本とは全然異つて居るから、その責任觀念も亦自ら異なるのは已むを得ない。例へば戰爭に於ても、歐米人は盡すべき責任を盡くした上は、後は天命の成行き致方なしと諦めて敵軍に降伏する、一般も亦それを普通と認めて居るやうに聞いて居る。工場勞働者の頭も亦同樣で、自らの責任と信ずる仕事に對しては一生懸命奮鬪はするが、その責任を果した以上は、自然の成行と諦めて居るやうであります。日本の軍人はこれとは全く反對で、人事を盡くして天命を待つは當然であるが、如何なることあるも敵に降るを潔とせず、その場合は命を捨てるのを以て本分と心得て居る、卽ちこれを日本魂と云ふ。これと同じく工場でも日本の從業員は、平素は米國人や加奈陀人などに比べて、多少野良久良するやうな所はあるが、一朝その工場の運命に關するやうな場合に際會すると、忽ち日本人特有の血が燃えて、上下一致

して工場の爲めに盡さうとし、責任論など言ふ者もなく、上の方よりは、寧ろ下の方から一身を捨てゝも工場のために貢獻し、命をかけても工場を盛り立てなければならぬと云ふ空氣を作り出す、かう云ふ實例は甚だ多いのであります。また平時でも、日本の勞働者を遇するに於て、賃銀または勞働條件の問題が大切であることは、歐米と違ふ所はないのであるが、日本人は單に金の問題ばかりで動くものではない、金は第一の必要品としてこれを欲するには相違ないけれども、或る場合は金以上の意氣に感する、所謂遇するに道を以てすれば、金も生命も入用なし、會社の爲めならば快く獻上しやうなど、本氣に申出でゝ事業主をして思はず涙を絞らせる者もある。これが即ち世界に比類なき日本人の特性であつて、日本魂は軍人のみの占有にあらずと、深く感ぜざるを得ないのであります。

今より數年前、濱口內閣が消極政策を翳し、金の輸出を解禁するや、さなきだに大戰後の不況に苦んで居た日本の商工業は、全く火の消えた如く殆ど全部倒產に瀕し、一部金融業者中には、この政策に贊成した者もないではなかつたが、朝野を擧げてこれに反對したのは、今尙ほ昨日の如く記憶に新しいところであります。この時に當り商工業、特に工場經營者の死力を盡したのは、第一に工場內の經費を節約し、その生產費を引下ぐること、第二はその能率を向上して勞力を節約することでありました。これをしなければ工場は閉鎖し、會社は倒產を免かれぬと云ふ、所謂どたん場に際會したので、何れも命がけでこれを實行したのであるが、その場合第一に困難を感じたのは勞働者の淘汰と、賃銀の引下げを實行しなければならぬ事で、この二つの實行には工場主始め支配者、何れも命を投出してかゝつたから、勞働者もその意氣に感じ、

全く時勢の成行致方なしとして、淘汰せらるゝ者も泣く泣くこれに應じて、大なる騒動もなく引下がり、支配者の方でも涙を以てこれを遇したのであるが、この時大いに役立つたものは我國特有の退職及び解雇手當の制度であります。この制度があつたのでこれを利用して、工場主も出來るだけのことをして、精神的に勞働者の立場に同情した處置を執つた爲めに、解雇されて失職した者も當分差支なく、何とか善處することを得た次第であります。また日本の勞働者の賃銀は、表面上の賃銀と實質上の賃銀との間に差があつて、工場の利益あり經濟上都合好き時は、或は賞與と稱し、特別賞與と稱し、出來高賞與と稱し、または役手當とか物價手當とか種々の名目の下に、實質上の賃銀引上げをなしつゝあるので、かう云ふ不況の場合に於ては、その中の一部分づゝを削つて、實際の賃銀引下げをすることも亦比較的容易に實行せられ、何人も

これに不平ある筈はない。故に最も困難な人員淘汰も賃銀引下げも、案外容易に實行が出來、一方諸般の經費節約も着々効果を現はして、全體の諸工場の內容が全く一變し、或る工場では生產費の二割三割を低下し、また或る工場では四割から五割も低下したと云ふ如き、洵に驚くべき實績を擧げ得て、この分ならば前代未聞の大不景氣にも、何とか打勝つて行けるのではないかと、幾分愁眉を開いたところへ、間もなく內閣が倒れて、金の輸出禁止が斷行され、爲替下落の幸運に惠まれたから、さなきだに內容が改善され充實した我產業が、こゝに一躍世界に雄飛する好機に際會し得たのであります。

いま米國及び加奈陀に渡り、親しく各製紙並にパルプ工場等を視察するに、その實況は恰も三、四年前の我國の狀態に髣髴たるものがあり、何れも慘憺たる苦境に惱ん

で居ります。一應も二應も經費の節約、能率の增進に努力をしないのではないが、しかし曾て日本に於て、吾々が實行した苦心と意氣には全く比ぶべくもなく、上に立つ者もその責任だけのことはするが、日本人の如く命がけの精神は見受けられない。下に働く勞働者も時間だけの努力はするが、それ以上の働きなどは全然考への外で、不景氣で工場が困るのは工場主の責任であつて、勞働者の關知する所ではない、それが爲め賃銀を引下げ勞働者の生活程度を低下するなど全く思ひも寄らぬ、自らの又はその家族の娯樂を犧牲にして、工場の爲めに盡くすことなどに、快く同意するものはないのであります。故に工場主も今日の賣値にて引合ふやうに、生產費を引下ぐることなど夢にも考へ及ばない。吾々日本人の眼より見れば、彼等は殆ど手を拱いて、自然の成行に任かせて居るやうに見受けられるのであります。

更にまた、工場操業の上から見れば、日本人は何事にも綿密であつて、如何なる細事にも用意周到である結果、工場內に不經濟のことなく、原料藥品その他消費量は米國の同種工場に比し大いに少なくして、その能率を發揮して居ることは事實であります。米國及び加奈陀では高賃銀に禍されて、細事に手の屆かぬためもあらうけれども、概して日本人は萬事に經濟的人種であつて、凡ての物を粗末にしない長所がある。これは工場經營には最も大切な要點であるから、かう云ふ長所は今後ます〳〵助長發達せしめたいものと思ひます。

かく兩者を比較して玆に到れば、私は實に吾々が日本人たることを感謝せざるを得ないのであります。日本人にして三、四年前に、今日の米國及び加奈陀人の如き考へを以てしたならば、果してあの難局を切拔け得たらうか。また果して今日の躍進を見

るを得たであらうか。彼を想ひこれを思ふて往時を追懐し、實に感慨無量のものがあります。

尙ほまた往時を顧みれば、吾々日本人がなした命がけの努力は、一面資本家の利益となつたのは勿論であるが、同時にその際、實質上の賃銀引下げをなし、生活上の苦痛をも忍んだ勞働者の利益ともなり、更らに今日の好景氣ともなれば、これ等勞働者の收入も漸次增加して、ます〳〵其幸福を增進する結果となり、延いて一般國家の爲めともなつた次第であるが、米國及び加奈陀の今日の實況の如く、資本家も進んで生產費の引下げをなす能はず、勞働者もその賃銀または勞働條件の低下を快とせず、互に手を拱いて自然の成行に任かせ、結局會社を破產するか、工場を閉鎖するか、二途の外に策なしとすれば、資本家も勞働者も共々に非常の不利となり、國家も亦不利益

を蒙ることを免かれない。彼我その國民氣質の然らしむるところとは云へ、制度の上から見ても、私は米國の工場經營には全然與みすることが出來ない。權利義務を主眼として、勞働者の幸福を圖らうとする日本の、所謂新思想家の再考熟慮を願はねばならぬところ、實に玆にありと云ふべきであらう。

以上は、我日本の特有とする資本勞働の長所であつて、吾々の私に世界に誇りとするところであるが、何としても機械及び技術については、更らに一段の努力を以てその進歩を圖り、この點に於ても、米國や加奈陀に一歩も讓らざる域に達することの、一日も早からんことを熱心に希望するものであります。

（九）日本の俸給勞銀の對策

——實質上の引上が必要——

私が今回の旅行中所々に於て有志に出會ひ、その地の官吏または公吏の俸給を尋ねたところ、オレゴン州知事は年俸二萬二千五百萬弗、書記官は二萬四百弗、會計部長六千二百弗、判事最高七千五百弗で、これを日本貨幣に換算すると、知事は約六萬七千五百圓、書記官は六萬千二百圓、會計部長は一萬八千六百圓、判事は二萬二千五百圓となり、またカリホルニヤ州では巡査の月給最低百五十弗最高二百五十弗、日本貨幣にすると最低四百五十圓最高七百五十圓となり、普通巡査は市長に屬し、交通巡査は州知事に屬する制度であるが、待遇は大同小異だと云ふことであります。米國大統領の年俸は七萬五千弗で日本貨幣二十二萬五千圓、副大統領及び各省大臣は一萬五千弗で四萬五千圓、大審院判事首席は二萬五百弗で六萬千五百圓、次席は二萬弗で六萬圓、下院議員は一萬弗の外に事務費五千弗計一萬五千弗、日本貨幣四萬四千圓、上院議員

は一萬二千弗外に事務費五千弗合計一萬七千弗で、日本貨幣五萬一千圓であります。

今これを日本の官公吏に比較すると、約十倍から十四、五倍に相當して居ります。

一方工場勞働者の賃銀、これは勞働時間の關係、勞働時間內に於ける勤務の都合もあつて、一概に律することは困難であるけれども、約七倍乃至十二三倍であるから、官公吏の俸給比較よりは稍や良い方と見なければならぬ。要するに日本は賃銀も低いが俸給も安いのは事實であつて、歐洲各國の人々が日本の勞働者の賃銀の低廉なのを見て、直ちにこれをソシャルダンピングとするのは、日本に於ける官公吏その他の俸給、または農民勞働者の賃銀を見すして、唯勞働賃銀のみを歐米のそれに比較しての議論であるから、その當を得たものでないことは、これでも分る譯であります。

しかし申すまでもなく、勞働者の待遇を出來るだけ改善し、その生活程度を漸次向

上せしめ幸福增進に努むべきことは、吾々工業に從事する事業家、または資本家の常に心掛くべき義務であります。今日國內に於ける釣合より見れば、日本の勞働者の收入が、決して官公吏その他の收入に比し、大に劣つて居るとは思はないけれども、私が工業家の立場として考へて見れば、米國の同種工業に從事する勞働者の賃銀に比較すると、日本のそれは安過ぎるやうに感ずるのであります。しかも現在の日本工業は米國とは異り、幸にして好況時代に進んで來て居るのであるから、この機會に資本家または事業家側より、進んで勞働者の生活を、幾分にても改良向上せしむる擧に出づることは、曾て不況時代の忍耐と同情に酬ゆる道であり、同時に我國特有の資本勞働の關係を將來に維持尊重し、共に利益を增進する所以でもあらうと考へるのであります。

固より、俸給と云ひ勞働賃銀と云ひ、その國その時の社會狀態によつて定まるもの

であつて、日本は日本、米國は米國で官公吏の俸給と勞働賃銀とは、自ら均衡がとれてゐる。從つて今勞働賃銀のみを引上げて、官公吏の俸給を上げぬ譯には行かぬ、また官公吏のみ俸給を引上げて、勞働賃銀はその儘にしては置けない。故に輕々には手の下せぬ問題であるが、今日の好況が今少し繼續すれば、恐らく官公吏の俸給復活問題も起るであらう。これは當然であつて、元々無理に無理を押切つて今日に至つたのであるから、この復活に對しては何人も異議はなからう。幸ひ議員の末席を汚して居る私は、寧ろ自ら進んでこれを提唱し、その實行の一日も速かならんことの機運を作りたいとまで考へて居る次第であります。かう云ふ問題が起つて、然る後に工場勞働者の賃銀引上げをしたのでは時機を失する虞れがある。併しながら、玆に賃銀引上げと言ふは實質上の賃銀引上げであつて、所謂公定の賃銀引上げではないことは勿論で

あります。

私は今回の旅行に於て、米國及び加奈陀が公定賃銀を極端に引上げ、而して今日不況の襲來に際會して進退に窮して居る實況を目擊し、泌みじみその愚策に驚いて居るものであるから、これを引上げるに於ては他日の不景氣をも豫想し、苟くも米國や加奈陀の轍を履むことなきやう、愼重周到なる用意が必要であることを、特に申して置きたいのであります。

（一〇）多量生産主義行詰る

――一般經濟界の多事多難――

米國工業の今日までの發展は、實に大量生産にあります。大量生産は國家が隆昌福

大に赴く途上、旭日昇天の勢にある時に於ては、その國内需要の增加に合致せしむるため、而してその餘剩を國外にダンピングするため、最も好適の政策であつて、米國はこれがため機械工業を益々發達せしめ、その發達により益々勞力を節約し、益々生産費を減少せしめて、遂に天下無敵の優良品を、世界の最低價格で生産し得るやうになつたのであります。その上偶々歐洲戰爭により、世界の物資需要急激に增加し、消費は常に需要に先じて、その價格の如き敢て問題とするに足らぬやうな時代を迎へて、大量生産主義に益々拍車をかけ、いよ〳〵米國をして世界の輸出國、世界の一大成金國たらしめたことは、世人の熟知するところであります。然るに今や世界の形勢は一變して、物資の供給は常にその需要を超過し、生産すればするほど賣行きは減少し、國内でも國外でもこれを買取らうとするものなき、未曾有の大不景氣を現出したので

あるから、勢ひその生産を縮小しなければならぬ、操業を短縮しなければならぬ、大量生産主義をモットーとする米國工業の惱みは、實にこゝに在るのであります。戰後十數年、今日まで蓄積した富は山の如く、その內には景氣恢復して好景氣は再び惠み來ることもあらうと、賴むべからざるを賴みとして歲月を送つて來たが、最早や今日となつては如何ともすることが出來ない。種々の救濟はこれを施せば施すほど、却つて反對の作用を起す。例の復興政策の如き、一時の人氣取りとしては相當の效果があつたやうであるが、實質に於ては何人もこれを喜ぶものなく、今では政府も、その始末に窮して居るやうな狀況にも見受けられる。擴張に擴張した工場は、これを運轉することが出來なければ、大量生産の目的は却つて反對の作用を呈する。引上げた賃銀は、勞働者の生活を向上せしめるには役立つたが、今は工場閉鎖と操業短縮となつて、

日々夜々失業者の多量生産が行はれ、既に全勞働者の約五分の一は失業者だと言はれてゐる。政府はこれに向つて獨身者には一箇月三十弗、家族一人に付き食費五弗、外に住宅費その他を給與してゐるから、失業者も先づ衣食に窮することはない、勞働者に取つては仕合せな良い制度のやうであるけれども、これが爲め一方では、丁度今回私が各地の實況を視察したときは、農業の收穫期であつたが、農家がホップ摘みとか、或は苺とりなどに勞働者を雇入れやうとしても、一箇月四、五十弗の收入では、誰も應ずる者がないと云ふやうなことになつてゐた。僅かばかりの收入に有付いて勞働するよりも、寧ろ失業手當を貰つて、ぶらぶらして居る方が遙かによいからで、政府も農家も、これには困り切つて居ります。かうして工場閉鎖、または操業短縮によつて解雇者續出し、失業者の群は所謂市に溢れて居るが、日本に於けるやうな勞資間

に何等の情義もなく、退職手當の制度もなく、たゞ政府のみが、その救濟に忙殺されて居るばかりであります。

またこの最惡の場合、時機を得たりとして、例の赤化宣傳者が跳梁跋扈を極めて居ります。これは實に想像以上であつて、恰も十餘年前我日本がそれに苦しんだ如く、各地方各工場共にそれ等の煽動によつて同盟罷業が續出し、しかも政府がその罷業者にも手當を支給して居ることは、罷業を勢ひ長引かせ、赤化宣傳者にます〳〵乘ずる機會を與ふる結果となつて、政府はこの始末にも窮して居るのであります。十餘年前我日本も同樣の災害に會ふて、朝野共に大いに憂慮したのであるが、幸にして赤化主義は思想として全然日本の國體とは兩立しない、殊に皇室に對しては逆賊であることが餘りに明白となつて、政府も極めて峻嚴なる彈壓方針を決し、治安維持法なども設

けられて、徹底的にこれが撲滅を圖つた爲め、今日では全く赤化主義者を斷つに至つたのは、實に日本帝國の爲め幸慶至極と申さなければなりません。然るに今日の米國の實況を見ると、日本ではこれは皇室に對し奉り不忠である、我國體に相反すると云ふ一言で簡單明瞭に反擊出來るが、國體を異にする米國では、それでは何人も了解が出來ない。また警察力によつて撲滅しやうとしても、大部分の警察は市長に所屬し、市長は多數の投票によつて選出されて居るので、任期繼續の際などは、一層勞働者の人氣を考慮する傾きがある。地方の警察の如きも大同小異で各地の政黨に所屬し、投票の多少が直に地位に影響するといふ組織であるから、日本の如く徹底的の彈壓は加へることが出來ないで、單に表面的の取締りでお茶を濁して居るに過ぎない。米國の識者中には大いに慨歎してゐる者があるけれども、今日は手の下しやうもない狀況に

見受けられるのであります。

また米國の産業資本家は、ジヤッジ・ゲーリー以來勞働組合法に反對し、オープンショップ主義を翳して、極力クローズショップ主義と鬪つて來たことは、世界勞働歴史に於て有名な事實であつて、米國の勞働組合が英國のトレードユニオンの如く發達することが出來なかつたのは、國體の異なるにも依るが、主たる原因は玆にあると信ずるのであります。然るにルーズベルト大統領就任以來、全然この傳統的政策を捨て勞働組合を援け、これが助長發達を圖つて、それを後援者として次回の選擧を爭はんとする方針の下に、種々の政策が實行せられつゝあるので、産業界不況の今日にも拘はらず、各地共同盟罷業續出の慘害を被つて居るのであります。しかも勞働者は賃銀の不平あるにあらず、勞働時間に不滿あるにあらず、稀れには食費または供給物資

を引下げよと云ふ附帶條件付要求もあるが、多くは勞働組合を公認して、團體取引を締結せよと云ふ主張に過ぎないのであります。これに對し米國西海岸各地の工場主、または産業資本家は、何れも口を極めて大統領を罵つて居るが、未だ一人のゲーリー出ず、單に陰口を並べて居るに過ぎないのは、如何にも腑甲斐なく見受けられる。大統領選擧には尙ほ餘日がある。或は東部地方の大産業家が大旆を翳して、一致團結大運動を起し、西部地方もこれに贊同するの氣運を搖起すかも知れないが、今日の實況は、他國のことながら如何にも齒がゆい有樣であります。

要するに、大量生産主義は、今日までの米國をして世界に類例なき大發展を遂げしめた獨特の主義であつたが、今日に於ては全く行詰つて、方向轉換をしなければならぬやうになつたのは事實であります。高賃銀主義も亦今日まで米國の繁榮を助け、一

般大衆をして世界に比類なき贅澤な生活に醉はしめてゐたのも事實であります。しかし今日となつては大量生産主義の行詰りと共に、この高賃銀主義も亦全くデッドロックに乘り上げてしまひました。而して新に生れたものは勞働組合主義と産業資本家との鬪爭激化、赤化主義防壓等々、數へ來れば米國の工業界、否産業界、否一般經濟界は、實に多事多難と言はなければならない。吾々はよろしく他山の石として、これを怠りなく注視研究すべきであらうと思ふのであります。（昭和十年九月下旬、龍田丸船中にて）

工業日本精神奥付
定價壹圓

昭和十年十一月一日印刷
昭和十年十一月三日發行
昭和十年十一月二十五日再版
昭和十年十二月二十七日三版
昭和十年十二月十一日五版
昭和十年十二月十五日十版
昭和十年改訂增補十八版發行
昭和十一年一月二日二十一版
昭和十一年一月廿八日二十二版
昭和十一年一月廿日二十二版
昭和十一年三月廿五日廿五版

著者　東京市京橋區京橋三ノ四　藤原銀次郎
發行者　東京市麹町區土手三番町廿九　鈴木利貞
印刷者　東京市京橋區京橋三ノ四　谷口熊之助
發行所　東京市京橋區京橋三ノ四　株式會社　日本評論社
電話京橋六一九一—四
振替東京一一六

11. 3. 24

終